永遠の真理

ETERNAL TRUTH

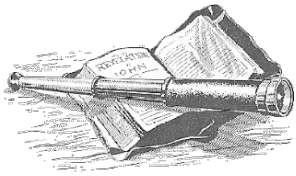
「キリストと
いわれるイエス」

2010年2月

「聖霊は快く従う者を助ける」「印する働きの終了」「成功の要因である意志の力」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)



目次

今月の聖書勉強　「キリストといわれるイエス」・・・・・・・・・・　4

朝のマナ　「聖霊は快く従う者を助ける」・・・・・・・・・　11
神の民のための賜物

現代の真理　「印する働きの終了」・・・・・・・・・・・・・・　40
印する働き

教育へのメッセージ　「成功の要因である意志の力」・・・・・・・・　46
子をその行くべき道に従って教えよ

健康へのメッセージ　「失業者や家がない人への助け」(II)・・・・　52
健康と幸福

力を得るための食事　「ごま豆腐」・・・・・・・・・・・・・・・・・　60

お話コーナー　「鳥(とり)たちと友(とも)だち」・・・・・・・・・・・・・・　62

神のみ前に生きるため

わたしは、また、悩みの時に、聖所に大祭司がおられないで神のみ前に生きるためにはどのような状態でなければならないかを悟っていない人が多くあるのを見た。生ける神の印を受け、悩みの時に保護される人々は、イエスのかたちを完全に反映していなければならない。

わたしは、多くの人々が、必要な準備をおろそかにしていながら、主の日に立ち得て神のみ前に生きるにふさわしいものとなるために、「慰めの時」と「春の雨」(後の雨)とを待っているのを見た。ああ、わたしは、なんと多くの人々が、悩みの時に、避け所がないのを見たことだろう。彼らは必要な準備を怠った。だから、彼らは、聖なる神の前に生きるのに適したものと彼らをするためにすべての者が持たなければならない慰めを、受けることができなかった。預言者に切り刻まれることを拒み、すべての真理に従って、魂を清めることをしない者、そして、自分たちは、実際よりは、はるかによい状態にあると思い込んでいる人々は、災害がくだるときになって、自分たちが建物に合わせて切り刻まれ、四角にされなければならないことを悟るのである。しかし、その時には、そうする時間もなく、天の父の前で彼らの執り成しをしてくださる仲保者もおられない。この時に先だって「不義なものはさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ」という厳粛な宣言が発せられたのである。すべての罪、誇り、利己心、世を愛する心、すべての悪い言葉や行為に勝利するのでなければ、だれひとりとして、「慰め」にあずかることができないのを、わたしは見た。であるから、われわれは、ますます主に近づき、主の日の戦いに立ち得るために必要な準備をするように、熱心に求めなければならない。神は聖であられて、神のみ前に住むことができる者は聖なる者だけであることを、すべての者が覚えているようにしよう。

「キリストといわれるイエス」

マタイ 1:16

聖書は、「言は肉体となり」、「神は肉において現れ」、すなわち「神はキリストにお」られ、そしてこのお方は神の「ひとり子」であられ（ヨハネ 1:14、テモテ第一 3:16 英文訳、コリント第二 5:19、ヨハネ 3:16）、罪人のための神からの最大の賜物だと述べています。

「ヨハネは、『父が御子を世の救主としておつかわしになったのを見て、そのあかしをするのである』と述べている。神の御子はご自分に人性をまとわれた。―『言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った』。『神は肉において現れ』た。神性と人性の結合は、堕落した人類に、わたしたちがほとんど理解していないような価値をもたらした。人と神がキリストのうちで結合していた。それは、キリストがご自分を信じる人々を代表することがおできになるためであった。このお方はわたしたちの性質を取られ、わたしたちの経験をへて、そしてわたしたちの代表としてわたしたちの責任を引き受けてくださった。人間の罪がキリストに負わされた。そして、このお方は罪のないお方であったにもかかわらず、罪人のために苦しみを受けられた。それはこのお方を信じる信仰を通して、世が救われるためであった。『御子の死によって神との和解を受けた』。キリストは世をご自分に和解させられ、その罪過の責任をこれに負わせることをされなかった。ああ、なんという同情と愛が表されたことであろう！キリストの功績を通して、人類はどれほど高められたことであろう！このお方の犠牲は十分で完全であった。聖なるお方は、汚れた者に代わって死なれた。このお方はわたしたちの汚れた衣でご自分をまとわれた。それはわたしたちがこのお方のしみのない義の衣、すなわち天の織機で織られた衣を着ることができるためであった。このお方はご自分を個人的な救い主として信

じるすべての人のために、負債をすべて支払われた。このお方の血はすべての罪から清め、すべての不義から洗練する。このお方のうちに、このお方を通してのみ、わたしたちは罪のゆるしを得ることができる。このお方の血を信じる信仰を通して、わたしたちは神のみ前に義認を得るのである。(ｻﾞ・ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1895 年 5 月 30 日)

あなたがたはわたしをだれと言うか?

「イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、『人々は人の子をだれと言っているか』。」「さらに厳密に尋ねて、このお方は『それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか』と問われた」(マタイ 16:13 ～ 15、預言の霊 2 巻 272)

自分の子供が十分に表現したり、話したりできなくとも、親として親密な関係を認める表現を切望している父親のように、イエスはご自分の弟子たちの心からの表現を聞きたいと熱望しておられました。なぜなら、このお方がこの世に来られたとき、外見上は神としてではなく、人として来られたからです。イザヤは、「彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない」と述べています(イザヤ 53:2)。

「人の目には、キリストは人間にすぎなかったが、このお方は完全な人であられた。その人性において、このお方は神聖な品性の体現であられた。神はご自身の特質―その力、その知恵、その善、その純潔、その誠実さ、その霊性、その慈善―をご自分のひとり子のうちに具体化された。このお方のうちには、人であられたにもかかわらず、あらゆる品性の完全さ、あらゆる神聖な卓越さが宿っていた。そして、『わたしたちに父を示して下さい。そうして下されば、わたしたちは満足します』というご自分の弟子の要求に応えて、

このお方は『ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか』、『わたしと父とは一つである』と仰せになることができた（ヨハネ 14:8、9、10:30）。

イエスに対するパリサイ人の強力な非難は、『あなたは人間であるのに、自分を神としている』というものであった（ヨハネ 10:33）。そしてこの理由のために、彼らはこのお方を石で打とうとしたのである。キリストはご自分の方からこの想定された考えを謝罪なさるようなことはしなかった。このお方はご自分を告発する者たちに、『あなたがたはわたしを誤解している。わたしは神ではない』とは言われなかった。このお方は人性において神を現しておられた。しかし、このお方はすべての預言者のうちで最もつつましいお方であった。そして、ご自分の生涯において、人間の品性が完全であればあるほど、ますます単純でつつましくなることを例証された。このお方は神性にあずかる者となることによって、人類はその人性においてどのようになれるかという模範を残されたのである。

キリストが人々の間におられた時から何世紀も過ぎたが、キリストはことごとくご自分が主張されたとおりのお方であるというわたしたちの証の確証は弱まってはいない。今日、『あなたがたはキリストをどう思うか』という質問が繰り返されるであろう（マタイ 22:42）。そして、一瞬もためらうことなく、『このお方は世の光であり、世がかつて知った中で最も偉大な宗教的思想家であり教師であられる』と答えることができる。今日このお方のみ声を聞くすべての人、すなわち、このお方の教えの中に打ち立てられた原則を研究するすべての人は、心から、キリストの時代のユダヤ人たちのように、『この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした』、『この人がキリストかも知れません』と言わずにはいられないのである」（ヨハネ 7:46、4:29）。」（彼を知るために 111）

もしだれであるか知っていたならば

「イエスは答えて言われた、もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、……その

人から生ける水をもらったことであろう」（ヨハネ4:10）。

「女はキリストのことばを理解しなかったが、その厳粛な意味を感じた。彼女の軽々しい、ひやかすような態度が変化しはじめた。彼女は、イエスが目の前の井戸のことを言われたのだと思って、……彼女は、目の前の人を、歩き疲れたほこりだらけの旅人にしか思わなかった。……彼女は父祖たちを回顧し、メシヤの来臨を待望していた。ところが……メシヤご自身が彼女のそばにおられるのに、彼女はそのおかたを知らなかった。今日、生きている泉のすぐ近くにいながら、いのちの泉を求めて遠いところをさがしている魂がどんなに多いことだろう」（各時代の希望上巻 220）

「どこでも人々は満足していない。彼らは魂の必要を満たすものを求めている。その足りないところを満たすことのできるおかたはひとりしかない。世の必要、「万国の願うところのもの」はキリストである（ハガイ書 2:7 文語訳）」（各時代の希望上巻 221）

「どれほど非常に多くの人々が神の賜物を知らないことであろう。彼らは真理について語り、天と宗教について語り、信仰について語るが、それを知らない。彼らには信仰が何を意味するか、すなわち神に信頼するとはどういうことか、また日々命の生きた水を飲むとはどういうことかについて経験的な知識がない。

命の水に渇いて、ああ、それが見つけられればと感じている人がいるであろうか。わたしが右を見ても、そこにない。左を見ても見つけられない。前を見ても、後ろを見ても、わたしはわが救い主を見つけることができない、と。あなたはこのお方をどのようにして見出すかを知りたいと望むであろうか。イエスの許に来なさい。困窮し、依存しているあなたのありのままの状態でみ許へ行き、幼子のような単純さで、子が親に対して抱くような信頼をもって、あなたの大きな必要をあわれんでくださるよう、このお方に願いなさい。こ

のお方に、救いの水が欲しいのですと告げなさい。

わたしたちがキリストの下さる水を飲まないかぎり、わたしたちは自分自身や周りの人の状況を向上させることはできない。イエス・キリストがわたしたちに与えることがおできになり、またわたしたちに与えたいと切望しておられる恵みに満たされることによってのみ、今にも滅びようとしている魂の必要が満たされるのである。

この女がキリストを知らなかったのは、彼女がサマリヤ人であったからではない。なぜなら、このお方はユダヤ人と同様、サマリヤ人を救うために来られたからである。このお方に、身分制度やえこひいきはない。このお方は世の罪を取り除くために来られた。これこそ、このお方はユダヤ人にもギリシャ人にもすべての人のためになしたいと願っておられることであり、またこれこそ、わたしたちが天国に入ることができる前に、自分自身のためになしておかなければならないことである。このお方のうちには罪がないゆえ、わたしたちの罪を取り除いていただかなければならない。このお方はわたしたちの罪を負われるお方である。（原稿 18 巻 1895 年 10 月 19 日）

イエスを仰ぎ見つつ

「信仰の創始者であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ」（ヘブル 12:2 英文訳）

弟子が、イエスを仰ぎ見るようにと命じるとき、限られた見解に招かれているのではありません。そのあらゆる方法と働きにおいて、このお方を眺めるためには、わたしたちの目が全体を見渡さなければなりません。もしわたしたちが万物の創造主を探すなら、イエスを見るのです。もしわたしたちが世の贖い主を捜し求めるなら、イエスに導かれ

ます。わたしたちは神のあらゆるご計画とご目的がまわりで展開している中心を探すでしょうか。そこにはイエスがおられます。わたしたちは罪のもっとも深い汚れにまで届くほど功績のある犠牲を切望するでしょうか。わたしたちはそれをイエスのうちに見出します。わたしたちは神が罪深い世のために受け入れることのできるほど価値のある捧げ物を探すでしょうか。再び、わたしたちはイエスを見ます。人類の苦痛の重荷、世の病気と悲しみ、すなわちわたしたち自身の重荷を負うことのできるお方を切望するでしょうか。わたしたちは憐れみ深いお方を見出します。見なさい！それはイエスであられます。人類歴史の跡をたどり、その意味を尋ねますか。それはイエスのうちに見出されます。なぜなら、真の歴史とは、世における神の働きを成就させる神のご計画の展開の記録に過ぎないからです。そして、すべての出来事は、み民のための恵み深い神のご計画を実行するために直接的に、あるいは間接的に支配されています。わたしたちが数え切れないほどの死んだ聖徒たちの墓を見るとき、わたしたちの思いは、彼らをよみがえらせてくださるイエスへと向けられます。わたしたちが生きている義人たちの運命を熟考するとき、再びわたしたちはイエスを仰ぎます。なぜなら、このお方は彼らのために来られるからです。預言に目を向けるとき、わたしたちはイエスを見ます。なぜなら、それは世のはじめからすべての聖なる預言者たちの語ってきた、このお方が油を注がれる更新の時についてだからです（使徒行伝 3:19 ～ 21）。そして聖徒たちの将来の嗣業を考えていたいと望むとき、そこにもまた、栄光に満ちあふれた、愛するイエスを見ます。なぜなら、王国を設立し、御父に祝福された人々にそこに入ってとこしえに所有するようにとお命じになるのは、このお方だからです（マタイ 25:34）。

このように、わたしたちがどの方向を見ても、上でも下でも、近くでも遠くでも、過去、現在、将来、聖書の一つ一つの教理、一つ一つの実際的な真理、一つ一つの神聖なご計画の頂点に、一つ一つの展望の果てに、わたしたちはイエス、すなわちすべてのすべてであられるお方、期待される喜びの中心であり周辺であるお方、ことごとく麗しく、万人にぬきんでているお方を見るのです（雅歌 5:16、10）。

わたしはわたしのものを知っている、とイエスは言われる……

「だからイエスは、『わたしは …… わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わたしを知っている。それはちょうど、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである』と言われる (ヨハネ 10:14、15)。これは何というとうといみことばだろう。天父の愛されるひとり子、神が『わたしの次に立つ人』(ゼカリヤ書 13:7) と宣言されたおかた、そのおかたと永遠の神との間のまじわりをもって、キリストと地上の子らとのまじわりを描写されるとは！

われわれは天父の賜物であり、イエスの働きの報いであるから、イエスはわれわれを愛されるのである。イエスは、われわれをご自分の子として愛される。読者よ、イエスはあなたを愛される。天そのものは、イエスよりも偉大なもの、イエスよりもよいものを与えることができない。だから信頼なさい」(各時代の希望中巻 281)

「あなたはなぜわたしがイエスを信じるのかとお尋ねになりますか」

「わたしは自分の信じてきたかたを知って」いると言える人はみな (テモテ第二 1:12)、イエスがどなたであるかを証できますし、また証するのです。彼らはイエスがどなたであるかを個人的に知っています。彼らは次のように言うでしょう、「あなたはなぜわたしがイエスを信じるのかとお尋ねになりますか」、それは、「わたしは助けを必要として、それをイエスの中に見いだした。すべての欠乏がおぎなわれ、わたしの心の飢えは満たされた。聖書は、わたしにとってキリストの黙示である。キリストはわたしにとって天来の救い主であるから、わたしは彼を信じる。聖書はわたしの心にとって神の声であることを知ったから、わたしはこれを信じるのである」(ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 444)

そしてヨハネは次のように宣言しています、「もし、わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによって彼を知っていることを悟るのである」(ヨハネ第一 2:3 ～ 5)。

神の民のための賜物

２月　聖霊は快く従う者を助ける

「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ」

快く従う者への賜物

「わたしたちの先祖の神は……イエスをよみがえらせ、そして……わたしたちはこれらの事の証人である。神がご自身に従う者に賜わった聖霊もまた、その証人である」（使徒行伝 5：30、32）

あなたには生ける神のみ言葉がある。そして、求めさえすれば、そのみ言葉を信じて従う者にとって力として下さる聖霊の賜物を得ることができるのである。(教会への証 6 巻 163)

イエスのうちに、安逸を愛し、何もしない者にとっては、いまわしい真理がある。イエスのうちに、従順な者にとっては心地よい喜びに満ちた真理がある。それは聖霊の喜びである。（レビュー・アンド・ヘラルド 1890 年 6 月 17 日）

天の三位なる生きたお三方がおられる。この大権者なるお三方、すなわち御父、御子、聖霊のみ名のうちに、生きた信仰によってキリストを受け入れる人々はバプテスマを受ける。そして、これらの大権者たちは、天の従順な臣民がキリストにある新しい命を生きるために努力するとき、彼らに協力してくださる。（バイブル・トレーニング・スクール 1906 年 3 月 1 日）

神の戒めを守ることにおいてキリストの模範に従っていないにもかかわらず、自分が聖なる者であると主張する部類の人々がいる。彼らは神のみ約束が与えられる条件を満たさずに、すぐにそれらを自分たちにあてはめる。しかし彼らの信仰には基礎がない。それは、すべる砂のようなものである。またそれとは別に、神の律法の要求を知り、そこに十字架が含まれていても、従順の道を選び、世から出てきて分離することを選ぶ人々がいる。彼らは都合を考慮せず、非難を恐れて真理を受け入れることにしり込みするようなことをしない。不法の道から離れ、神の戒めの道に足を置く。服従という条件に基づいて与えられる神の約束は、その聖なるみ言葉の光の中を歩む人々のためである。神のみ旨を行う人々は主が約束された益をすべて主張することができる。(ザ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1890 年 3 月 31 日)

われわれは、よろこんでおのれをむなしくするときにのみ天の光を受けることができる。われわれは、すべての思いをとりこにしてキリストに従わせることに同意しないかぎり、神のご品性を認識することも、信仰によってキリストを受け入れることもできない。これをなす者にはすべて、聖霊が無制限に与えられる。(各時代の希望上巻 214)

信頼することによって得る力

「律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。」(ローマ 8：3、4)

「古い契約」の条件は、従って生きよということであった。「人がこれを行うことによって生きるものである」しかし、「この律法の言葉を守り行わない者はのろわれる」(エゼキエル書 20:11、レビ記 18:5 参照、申命記 27:26)。「新しい契約」は、「さらにまさった約束」によるもので、罪のゆるしの約束と、心を新たにする神の恵みと、神の律法の原則に心を一致させる約束によるのである。「しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にしるす。‥‥ わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない」(エレミヤ書 31:33、34)。

石の板に刻まれたのと同じ律法が、聖霊によって心の板に書かれるのである。自分自身の義を確立させようと努力するかわりに、われわれは、キリストの義を受け入れる。キリストの血がわれわれの罪を贖うのである。キリストの服従が、われわれに代わって受け入れられる。こうして、聖霊によって新しくされた心は、「御霊の実」を結ぶのである。キリストの恵みによって、われわれは心に書かれた神の律法に従って生きるのである。キリストのみ霊を持っているから、彼が歩かれたように歩くのである。(人類のあけぼの上巻 442、443)

救い主は、人間がどうして勝利を得るかを示すために勝利された。キリストは、サタンのすべての誘惑に対して神のみ言葉をもって応じられた。神の約束に信頼なさって、神の律法に服従する力をお受けになったため誘惑者は勝つことができなかった。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 156)

キリストはその人性によって人類に触れ、その神性によって神の御座をつかんでおられる。このお方は人の子として服従の模範を与え、神の御子としてわたしたちに従う力をお与えになる。(キリストを映して 45)

聖霊は何をなさるか

「〔慰め主〕がきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう。」(ヨハネ16：8)

サタンの統治が抑制され服従させられるのは聖霊という力強い代理者によってである。罪を納得させ、人間という代理者の同意によってそれを魂から追い出すのは聖霊である。そのとき思いは新しい律法のもとに連れてこられるが、その律法は自由の王家の律法である。イエスは魂から罪の奴隷の足かせを砕くために来られた。なぜなら罪は魂の自由が失われるときにのみ勝利することができるからである。イエスは人間の悲哀と苦悩の深みにまで到達された。そしてその愛は人をご自身へと引き寄せる。聖霊という代理者を通してこのお方は思いをその堕落から引き上げ、永遠の現実に固定される。キリストの功績によって人は自分の存在の最も気高い力を実践し、自分の魂から罪を追い出すことができる。(レビュー・アンド・ヘラルド1893年4月25日)

聖霊はだれかにへつらうこともなければ、だれかの発案によって働かれることもない。有限で罪深い人間が聖霊を働かせるのではない。神がお選びになる人間を通して〔このお方〕が譴責者としてこられるとき〔このお方の〕声に聞き従うのは人の分である。(牧師への証65)

わたしたちは父祖のいた場所にいるのではない。この終わりの時代にはより前進した光がわたしたちの上に輝いている。父祖が行なったのと同じ奉仕をし、同じ働きをするのでは、神に誉れを帰すことも、このお方に受け入れていただくこともできない。神のみ前に罪のないものとみなされるために、わたしたちは彼らが自分たちの上に輝いた光に従い服従することによって忠実であったように、今の時代にわたしたちの光に従い服従することによって忠実でなければならない。神の教会員の一人びとりに天父は与えられた恵みと光に応じた信仰と実をお求めになる。神はそれ以下のものを受け入れることはおできにならない。(レビュー・アンド・ヘラルド1893年4月25日)

義務の声に聞き従わない男女子供のための助けはない。義務の声は神の声だからである。(牧師への証402)

特別な、幸福な生活

「キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである もしわたしたちが御霊によって生きるのなら、また御霊によって進もうではないか。」（ガラテヤ 5：24、25）

改心した者は自分の友達がキリストのためにすべてを捨てるようにという切なる願いを絶えず感じる。彼らがそうしないかぎり最終的で永遠の離別があることを知っているからである。真のクリスチャンは不信心な友人といるときに、軽薄や軽率ではいられない。キリストがそのために死なれた魂の価値は非常に大きい。

「自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない」と、イエスは仰せになる（ルカ 14：33）。神から愛情をそらせる者はなんであってもあきらめなければならない。富は多くの者にとって偶像である。その金の鎖は彼らをサタンに結びつける。また他の人々は名声と世的な名誉を崇める。また責任から逃れた利己的で安逸な生涯を偶像とする人々もいる。これらはサタンのわなであり、軽率な者の足元に置かれている。しかし、これらの奴隷のくびきは砕かれねばならず、肉は情と欲と共に十字架につけなければならない。わたしたちは半ば主のもの、半ば世のものであることはできない。（教会への証 5 巻 83）

あなたは、自分を神にささげ、全く神のものとなり、神に仕え、神に従い、キリストをあなたの救い主として受け入れたのである。あなたは自分ではおのれの罪をあがなうことも、心を変えることもできなかった。しかし神におのれをささげ、神がこれをすべてキリストのゆえになして下さったと信じたのである。信仰によってキリストのものとなったのであるから、また、信仰によってキリストのうちに成長するのである。これは、こちらからも与え、また、神からも受けることである。自分の心も意志も奉仕もすべてを神にささげ、神のご要求にことごとく従わねばならない。そして、服従する力をうけるには、あらゆる祝福に満ちあふれるキリストを心に宿し、キリストをあなたの力、義、また永遠の助けとしてうけなければならない。（キリストへの道 93）

キリストとつながっている者は、思いのままに幸福になれる。救い主が導かれる道に従う。このお方のために情と欲と共に自己を十字架につけているからである。これらの人々はキリストに自分の希望を築いているので、地上の嵐は彼らを確かな土台から一掃する力はない。（教会への証 4 巻 655）

主のみ言葉を守り、祝福を刈り取れ！

「もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう。……助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。」（ヨハネ 14:23、26）

従順はキリストのみ言葉を行なうことである。神のみ言葉は生ける神との交わりの手段である。み言葉を食する者は良い働きすべてに実り多い者となる。神の共労者は、真理の豊かな鉱脈の発見者となり、彼は隠れた宝を見つけるためにその鉱脈を探らなければならない。誘惑に囲まれたとき、聖霊はまさにその誘惑に対処すべきみ言葉を、最も必要なその瞬間に思い起こさせて下さる。そして彼は従わせる力を持ってそれらを効果的に用いることができる。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1895 年 9 月 5 日）

キリストはわたしたちがどのように祈るべきか指示しておられる。わたしたちは聖霊の賜物を天父に求め、子供のような単純さで御父のところへ来なければならない。イエスは再び「なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう」と仰せになる。あなたは自分の罪を悔い改め告白し、あらゆる罪と汚れに染まった魂を空にして、御父のところへ来るべきである。そして主の約束を証するのはあなたの特権である。あなたは自分の気質にふけり、自分の方法をとりながら、神の子であり続けることはできない。わたしたちは自分の遺伝的傾向と苦闘しなければならないが、それは誘惑に屈せず、挑発のもとで腹を立てないようになることができるためである。わたしは日々、わたしを困らせ、当惑させ、いらいらさせる事柄、すなわち、もしわたしが許すなら、わたしの平安を台無しにするような事柄と闘わなければならない。しかし、わたしは誘惑に屈したりはしない。わたしは永遠の岩なるお方にわたしの魂を固定している。そしてサタンがわたしを困惑と悩みの状態のままにすることができないように、キリストがあらゆる点においてわたしの助けでなければならない。イエスは「わたしの平安をあなたがたに与える」と仰せになった。わたしたちが信仰によってキリストの平安を求めるなら、それを得る。イエスは「求めなさい、そうすれば、与えられるであろう」と仰せになる（ヨハネ 14:27、16:24）。（レビュー・アンド・ヘラルド 1892 年 10 月 11 日）

賜物を求めよ、条件に従え

「神の戒めを守る人は、神におり、神もまたその人にいます。そして、神がわたしたちのうちにいますことは、神がわたしたちに賜わった御霊によって知るのである。」（ヨハネ第一3：24）

わたしたちの間の真の信心のリバイバルこそ、わたしたちのあらゆる必要の中でも最も大きくかつ最も急を要する。これを求めることが、わたしたちの第一の働きでなくてはならない。主の祝福を得るために熱心に努力しなければならないが、それは神がご自分の祝福をわたしたちに与えたくないからではなく、それを受ける準備がわたしたちにできていないからである。わたしたちの天父は、地上の両親が自分の子供によい贈り物を与える以上に、ご自分に求める者に聖霊を与えたいと思っておられる。しかし、告白とへりくだり、悔い改めと熱心な祈りによって、神がご自分の祝福をわたしたちに与えると約束なさった条件を満たすのは、わたしたちの働きである。（セレクテッド・メッセージ1巻121）

イエスは「わたしに従ってきなさい」、「わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」（ヨハネ8：12）と仰せになる。それを困難な義務だと考えてはならない。神の戒めは、人があらゆる悪から守られるようにと、思慮深い計画の中で愛の心があふれでる神のご品性の表れである。その戒めは人に対して気ままな権威を行使するためではなく、主が人に、ご自分の従順な子ら、すなわちご自分の家族の一員として行動してほしいと望まれるからである。従順はキリストおよび御父とひとつであることの当然の結果であり、実である。……

わたしたちが間違いなくイエスのみ声に聞き従うとき、あらゆる不満の思いは抑制され、戒めをお与えになったお方にすべての結果を委ねる。わたしたちがイエスのみ足跡を見るとき、それに踏み従うなら、わたしたちは愛と力を得る。（ザ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ1893年4月17日）

わたしたちは見張り、祈り、神の愛の内に自分の魂を保つべきである。それは、わたしたちがこのお方に心からの服従をお捧げできるためである。わたしたちは聖書を探ることによって受ける光のあらゆる光線を大切にすべきである。聖霊は、神の祝福を心から熱心に求めている者の心に働きかけ、彼が誘惑に抵抗できるようにしてくださる。（ユース・インストラクター1893年8月17日）

品性の真の気質

「聖霊……（は）わたしたちにあかしをして、『わたしが、それらの日の後、彼らに対して立てようとする契約はこれである』と、主が言われる。『わたしの律法を彼らの心に与え、彼らの思いのうちに書きつけよう』と言い」（ヘブル10：15、16）

キリストを信じる真の信仰を働かせる者は品性の聖潔によって、神の律法に服従することによってそれをあらわす。イエスの内にあるその真理は天に達し、永遠を達成することに彼らは気づく。クリスチャンの品性はキリストのご品性をあらわし、恵みと真理に満ちていなければならないことを、彼らは理解する。彼らには恵みの油が与えられ、それは決して消えることのない光を維持するのである。信者の心の中におられる聖霊は、彼をキリストのうちに完全にする。男女が興奮するような状況下で、深い感動を覚えるからといって、クリスチャンであるという決定的な証拠とはならない。キリストに似た者はその魂の内に深く、断固とした、辛抱強さがあり、しかも自分自身の弱さを自覚しており、悪魔に欺かれたり誤った方向に導かれたりすることがなく、自分に信頼しない。彼には神のみ言葉の知識があり、自分の手をイエス・キリストのみ手の内に置き、このお方をかたくつかんでいるときのみ安全でいられることを知っている。

品性は危機のときに表れる。「夜中に、『さあ、花婿だ、迎えに出なさい』と叫ぶ声がした」と熱心な声が宣言したとき、眠っていた乙女がまどろみから覚めたが、だれがその出来事のために準備をしていたかが分かった。どちらのグループも不意を襲われたが、一方は緊急のために用意をしており、他方は用意をしていなかったのが分かった。品性は生活状態に表れ、緊急時に品性の本性が明らかにされる。何か突然の予想もしなかった非常な悲しみ、死別あるいは危機、何か予期しなかった病気や非常な悲しみ、魂を死に直面させる何かは品性の真の本質をあらわにする。それは神のみ言葉の約束を本当に信じているかどうかを明らかにする。（レビュー・アンド・ヘラルド1895年9月17日）

心の奥底から従う

「わたしの声に聞きしたがいなさい。そうすれば、わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。わたしがあなたがたに命じるすべての道を歩んで幸を得なさい。」（エレミヤ 7：23）

わたしたちは各々、従って生きることもできるし、もしくは神の律法に違反しその権威を無視して罰を受けることもできる。それではわたしは天からの声、シナイ山で語られた十戒に従うのであろうか、それともその恐るべき律法を踏みにじる大多数の者と一緒に進むのであろうか。神を愛する者にとってその戒めを守ること、その御目に喜ばれることをするのはこの上ない喜びである。しかし生来の心は神の律法を憎み、その聖なるご要求に向かって戦う。人々は聖なる光に対して魂を閉ざし、その光が自分の上に輝くときにそのうちに歩むことを拒む。彼らは利己的な満足、世的な富のために心の純潔、神の好意、天国の希望を犠牲にする。

詩篇記者は「主のおきては完全であって」と言う（詩篇 19：7）。エホバの律法は、その単純さ、その包括的かつ完全さにおいて、なんと素晴らしいことであろう！それは非常に簡潔なので、すべての教訓をたやすく記憶することができるが、しかも神のみ旨全体を表現するほど遠大であり、外面の行動だけでなく、心の思想、意図、願望、感情まで範疇（はんちゅう）に含む。人間の法律はこれをすることができず、外に現れた行動に対処できるだけである、ある人が違反者であってもその悪事を人の目から隠すことはできる。彼は犯罪者―泥棒、殺人者あるいは姦淫をする者であるかもしれないが、それが発見されないかぎり法律は彼を罪に定めることはできない。神の律法は、行動として外面に現れなくても、魂全体にわきおこる嫉妬、妬み、憎しみ、激しい悪意、復讐、肉欲、野望に注目する。外面に現れなかったのは、意志ではなく、機会がなかったからである。（セレクテッド・メッセージ 1 巻 217）

だれの心の中にも主がはっきりと見られることのない動機はないことをすべての者が覚えていよう。一人びとりの動機はあたかもその人の運命がこの一つの結果に掛かっているかのように注意深く量られている。（レビュー・アンド・ヘラルド 1906 年 3 月 8 日）

静まって細い声に耳を傾けよ

「われわれは良くても悪くても、われわれがあなたをつかわそうとするわれわれの神、主の声に従います。われわれの神、主の声に従うとき、われわれは幸を得るでしょう。」（エレミヤ 42：6）

聖霊の声に今日聞き従いなさい。よこしまな者が正されるのに遅すぎないことを神に感謝しなさい。今は恵みの時、救いの日である。（ユース・インストラクター 1893 年 11 月 30 日）

神の御霊は人間の自由を妨げない。聖霊が助け手として与えられているのは、人間が聖なる知的存在者たちと協力することができるためである。魂を引き寄せるのが聖霊の領分であって、決して服従を強いることはない。キリストは天来の感化をすべて分け与える準備をしておられる。このお方は人に来るあらゆる誘惑も一人びとりの能力もご存知である。このお方はその人の強さを量られる。このお方は現在と将来をご覧になり、思いの前に対処すべき義務をお示しになる。そして、ありふれた地上の事柄にあまりに夢中になって、永遠の事柄を計算に入れず見失ってしまうことのないようにと強く勧めておられる。聖霊は神がお委ねになった能力をキリストの奉仕に持ち込み、人が変えられることを真剣に願うのに比例して神聖な型であられるお方にかたどってその人を形造られる。(同上 1894 年 7 月 5 日)

だれも神の律法を無関心にまた軽蔑して取り扱いながらキリストの内に宿ることはできない。なぜならこれはキリストをキリストに敵対させることになるからである。真理の御霊によって再生された心の中には神の戒めすべてを愛する愛がある。……わたしたちがイエスのみ言葉を重んじ、それを行なうとき、わたしたちを御父とひとつにする本物の愛をわたしたちが持っていることを証すると、イエスははっきりと仰せになった。わたしたちは嗜好と傾向がひとつである。イエスの御霊は、このお方の愛とこのお方の従順とこのお方の喜びでクリスチャンを満たす。（ザ･サインズ･オブ･ザ･タイムズ 1891 年 12 月 28 日）

降伏の結果

「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。 わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。 それは真理の御霊である。」(ヨハネ 14：15 ～ 17)

キリストは聖霊の賜物をご自分の教会に約束されたが、その約束は、最初の弟子たちと同じようにまたわれわれのものである。しかしほかのすべての約束と同じように、それは条件つきで与えられている。主の約束を信じ、これをわがものと主張する人は多い。彼らはキリストについて語り、聖霊について語るが、何の益も受けない。彼らは天来の力によってみちびかれ、支配してもらうために魂をあけわたそうとしない。われわれが聖霊を用いることはできない。みたまがわれわれを用いてくださるのである。みたまを通して、神は民のうちに働き、「その願いを起させ、かつ実現に至らせ」てくださるのである (ピリピ 2：13)。しかし多くの者はこれに従おうとしない。彼らは自分で自分を支配したいのである。これが、彼らが天の賜物を受けない理由である。みたまは、へりくだった心で神に仕え、そのみちびきと恵みを待ち望む者にだけ与えられる。神の力は彼らが求め、受けるのを待っている。この約束された祝福を信仰によって求めるときに、ほかのすべての祝福は次々と与えられる。それはキリストの恵みの富にしたがって与えられるのであって、主はどの魂にもその受け入れる能力にしたがっていつでも与えてくださる。(各時代の希望下巻 158)

神はだれも間違う必要がないようにわたしたちに明確な指示を与えておられる。「『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』と書いてある」とこのお方は仰せになる (マタイ 4：4)。霊感によって与えられた真理は「人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である」(テモテ第二 3：16)。ひとつの言葉、あるいは多くの言葉によってではなく、神が語られるすべての言葉によって人は生きるのである。たとえあなたには些細なことのように思われたとしても、このお方が与えておられるひとつの言葉、一つの命令でも無視しながら、安全ではいられない。(教会への証 5 巻 434)

聖霊を分け与えることはキリストの命を分け与えることである。神にこのように教えていただく者は聖霊の内なる働きを所有する者だけであり、キリストのようであることが表されるその生涯に、救い主の真の代理者として立つことができる。(キリストを映して 31)

霊的勝利のために強くされる

「もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたがたはすべての民にまさって、わたしの宝となるであろう。全地はわたしの所有だからである。 あなたがたはわたしに対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう。」（出エジプト19：5、6）

神は人をあるがままに受け入れ、彼らがご自分に委ねるなら、ご自分の奉仕のために彼らを教育なさる。魂に受け入れられる神の御霊はその能力をすべて活気づける。聖霊の導きのもとに神に無条件に捧げられた思いは調和して発達し、神のご要求を理解して成就するために力づけられる。弱くためらいがちな性格は強く堅固な品性へと変えられていく。継続的な献身はイエスと弟子たちの関係を非常に緊密なものとし、それによってクリスチャンは品性が主人と似たものとなる。彼はより明確な広い見解を持つ。彼の識別力はますます鋭くなり、その判断力はより均整の取れたものとなる。彼は命を与える義の太陽の力によって活気づけられるので、神の栄光のために多くの実を結ぶことができる。

キリストは罪に対して勝利を得ようと格闘する人々と共に聖霊はとどまると約束なさった。それは、人間という代理人に超自然的な力を授け、また無学な者に神の王国の奥義について教えることによって聖なる大能の力を示すためである。神のひとり子がご自分を低くし、悪賢い敵の誘惑に耐えて、義なるかたであるのに、不義なる人々のために死なれたが、もし、聖霊が個々人の事情において絶えず働く再生の代理者として与えられなかったとしたら、世の贖い主によってなされたことは、いったいわたしたちにとって何の益があったであろう。……

今日この御霊は、人々の注意をカルバリーの十字架上でなされた大いなる犠牲に引きつけ、人に対する神の愛を世に表し、罪を自覚した魂に聖書の約束を開いて見せようと、絶えず働いておられる。（福音宣伝者285、286）

御霊によって歩く

「御霊によって歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない。」（ガラテヤ 5：16）

人が自己をまったく空にし、あらゆる偽りの神が魂から追い出されるとき、その空間はキリストの御霊が注ぎ込まれることによって満たされる。そのような人には魂を汚れから清める信仰がある。彼は聖霊に一致し、聖霊のことを思う。自己にまったく信頼せず、キリストがすべてのすべてである。彼は絶えず開かれている真理を柔和に受け入れ、すべての栄光を主に帰す。そして、次のように言うのである。「それを神は、御霊によってわたしたちに啓示して下さったのである。」「ところが、わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって、神から賜わった恵みを悟るためである」（コリント第一 2：10、12）。

啓示なさる御霊は、また義の実を彼のうちにもたらす。キリストは彼の内で「泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがる」（ヨハネ 4：14）。彼はまことのぶどうの木の枝であり、神の栄光のために豊かな房の実を結ぶ。どのような性質の実を結ぶのであろうか。御霊の実は憎しみではなく「愛」、不満足や呟きではなく「喜び」、いらだち、不安、こしらえた試練ではなく「平和」である。それは「寛容、慈愛、善意、信仰、柔和、自制」である（ガラテヤ 5：22、23）。（福音宣伝者 287）

義の太陽の輝く光線を暗くなった思いに射し込むのは御霊である。御霊は永遠の真理に対する悟りを目覚めさせ、人々の内で心を燃やし、思いの前に義の大いなる基準を示して罪を確信させ、罪から救うことのできるただ一人のお方を信じる信仰を抱かせ、現世の滅びゆく事柄から人の愛情をそらし、それらを永遠の嗣業に固定させることによって、品性を変える。御霊は人間を再創造し、精錬し、聖化させ、彼らを王家の一員、すなわち天の王なるお方の子にふさわしい者として下さるのである。（同上 286、287）

徹底的な清め

「このかたは、聖霊と火とによっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう。箕を手に持ってその場所を完全にお清めになる。」（マタイ3：11、12英文訳）

神の審判はすでに嵐、洪水、大嵐、地震、地と海の危難によって地上に広がっている。偉大な「わたしは有る」というお方がご自分の律法を無効にしている人々へ語りかけておられる。神の怒りが地上に降り注ぐとき、だれが立ち得ようか。神の民が原則に忠実であるのを示すときは今である。キリストの宗教が最も侮られ、その律法が最も軽蔑されているとき、そのときこそ、わたしたちの熱心さが最も熱烈であり、わたしたちの勇気が最も果敢なときでなければならない。大多数がわたしたちを捨てるときに真理と義を守って立ち、擁護者がほとんどいないときに主の戦いを戦うこと、これがわたしたちのテストとなる。このときわたしたちは他の人々の冷たさから温かさを、彼らの臆病から勇気を、彼らの背信から忠誠を集めなければならない。国家は反逆の大指導者の側にいる。

教会の精錬の日々は急がれており、神は純潔で真実な民をお持ちになる。まもなく起こる力強いふるいにおいて、わたしたちはよりよくイスラエルの強さを測ることができる。主が箕を手に持ち、まもなくご自分の場所を完全にお清めになるその時が近いことをしるしが示している。

大きな困惑と混乱のあるその日が速やかに近づいている。天使の衣をまとったサタンができることなら選民をも惑わそうとする。神と称する多くの者、主と称する多くの者がおり、あらゆる教理の風が吹く。……

〔神の〕怒りが審判において表されるとき、身を低く献身してキリストに従う者は、その魂の苦悩によってその他の世の者とは区別される。その苦悩は悲嘆、涙、譴責また警告によって表される。他の者が存在している悪を外套で覆い、いたるところに行き渡っている大きな邪悪を言い逃れようとする一方で、神の名誉のための熱心さと魂への愛を持っている人々は、他人の好意を得るために、黙っていたりはしない。（レビュー・アンド・ヘラルド1887年1月11日）

改革をなす譴責

「わたしの戒めに心をとめよ、見よ、わたしは自分の思いを、あなたがたに告げ、わたしの言葉を、あなたがたに知らせる。」(箴言1：23)

人々の救いを果たすために神はさまざまなものをお用いになる。み言葉によって牧師によって彼らに語り、聖霊によって警告、譴責、教えのメッセージをお送りになる。これらの手段は、民の理解力を啓発するため、また彼らに自分たちの義務と罪、および彼らが受けることのできる祝福を示すため、さらにキリストの許へ行き、自分が必要とする恵みをこのお方のうちに見出すことができるよう彼らに霊的欠乏を自覚させるためである。しかし多くの者が神の方法の代わりに自分自身の方法に従うことを選ぶ。自己が十字架につけられ信仰によってキリストが心のうちに住んでくださるまでは、彼らは神と和解しておらず、また和解できないのである。(教会への証5巻46)

神のみことばや、神の使命者たちを通して与えられる警告と譴責と懇願の一つ一つは、心の戸をたたく音である。それは中にはいることを求めておられるイエスのみ声である。ノックを無視するたびに、戸を開く気持がうすれる。聖霊の感動は、きょう無視されると、明日はきょうほど強くなくなる。心はだんだん感じなくなり、人生の短かさについて、また未来の大いなる永遠について、危険な無感覚状態に陥る。さばきの時にわれわれが罪に定められるとすれば、それは、われわれが誤謬の中にいた結果ではなくて、何が真理であるかを学ぶ機会を天から与えられていたにもかかわらず、これを無視した結果である。(各時代の希望中巻291)

人の誤りを正し、改めさせようとする場合、ことばに気をつけなければならない。ことばは命に至る命の香りともなれば、死に至る死の香りともなる。人を譴責したり、勧告したりするときに、傷ついた魂をいやすのにはふさわしくない鋭いきびしいことばを出す人が多い。このような思慮に欠けた発言によって、心を傷つけ、誤った人を反抗的にさせることがよくある。真理の原則をのべ伝えるものは、すべて、天からの愛の油を受ける必要がある。どんな場合であっても、譴責のことばは、愛をもって語らなければならない。そうするならば、わたしたちのことばは、人を怒らせたりしないで、改革をうながすことができる。キリストは、聖霊によってわたしたちに、活力と能力を供給してくださる。これがキリストのお働きなのである。(キリストの実物教訓312)

霊的食物

「人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。」(ヨハネ6：63)

聖霊を受け入れることに関してわたしたちの側で間違いを犯す危険がある。多くの者は感情や気分の高揚が聖霊の臨在の証拠であると思っている。正しい感覚が理解されず、「あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ」とのキリストの言葉がその意義を失う危険性がある(マタイ28：20)。新奇な考案や迷信的な想像が聖書に取って代わる危険性がある。「御言の中に示されていない何かを持ち込もうと切望しないで、キリストに密着していなさい」と民に言いなさい。(セレクテッド・メッセージ2巻18)

わたしたちが神の御子の肉を食べ、血を飲むのは、キリストのみ言葉を食することによってである。このお方のみ言葉への服従によって、ちょうどわたしたちが自分の食べる食物でできているのと同様に、わたしたちは神性にあずかる者となるのである。神の御子の肉を食べ、血を飲む人々は、霊的命においてキリストと一つになる。だれ一人として、人の食べた食物によって栄養を受けることはできない。人は自分で食べなければならないのである。(家庭伝道1897年6月1日)

すべての世界を出現させた創造のエネルギーは、神のみ言葉のうちにある。神のみ言葉は能力を与え、生命を生ぜしめる。神のご命令の一つ一つは約束であって、意志がこれに同意し、魂がこれを受け入れるときに、そこには同時に限りない神の生命がもたらされる。それは人の性質を一変させ、魂を神のみかたちに再創造する。

このようにして与えられた生命は、また同じようにして維持される。人は、「神の口から出る一つ一つの言」によって生きなければならない。

心と魂はかてによって築かれる。どんなかてをとるかを決定するのは、われわれ自身の責任である。われわれの思いを占め、品性を形造る話題の選択は、各人の能力の中にある。(教育135、136)

得られる創造力

「神の霊はわたしを造り、全能者の息はわたしを生かす。」（ヨブ 33：4）

男女がまず最初に始めるべきことは、真のクリスチャン経験のために神をこの上なく熱心に求めることである。彼らは聖霊の創造力を感じなくてはならない。彼らは天の恵みによって穏やかでまた思いやり深くあるために新しい心を受けなくてはならない。利己的な精神は魂から清められねばならない。一人びとりが導きと励ましを求めてイエスを見つめつつ、心をへりくだらせて熱心に取り組むべきである。そのとき適切に組み合わされた建物は主にあって聖なる宮へと成長する。(高い召し 159)

人が真理によって改心するとき、品性を変える働きが進む。彼は神に従順な者になるにつれて理解度が増し加わる。神の思いと意志が彼の意志となり、勧告を求めて神を絶えず見つめることにより彼は理解度が増し加わった人になる。全面的に神の御霊の導きの下に置かれる思いは全体的に発達する。これはかたよった品性を発達させるかたよった教育ではなく、調和の取れた品性を発達させる。無力な揺れ動く品性に見られた弱々しさは克服され、継続的な献身と敬神によって彼はイエス・キリストとの非常に緊密な関係に入り、キリストの思いを持つようになる。彼はキリストと一つであり、原則の健全さと強さ、また知覚力の明晰さを持つ。それはあらゆる光と悟りの源であられる神から来る知恵である。神の恵みは謙遜で、従順で、良心的な魂の上に、義の太陽のように降り注ぎ、思いの機能を強め、たとえ小さくても自分たちの能力を主人の奉仕に用いたいと切望する人々を、最も驚くような方法で、服従と実践によって絶えず強め、イエス・キリストの恵みと知識に成長させ、良いわざによって神の栄光のために多くの実を結ぶ者とならせるのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1887 年 7 月 19 日)

御霊に従って歩む

「肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である。」(ヨハネ3：6)

神は力をまとっておられる。このお方は不正と罪に死んでいる人々を受け入れ、イエスを死人の中からよみがえらせた御霊の働きによって、人の品性を変え、魂に失われた神のかたちを回復することがおできになる。イエス・キリストを信じる人々は、神の律法に逆らう者からその王国の従順な僕、従順な臣民へと変えられる。彼らは新たに生まれ、再生され、真理によって聖化される。(ユース・インストラクター1895年2月7日)

神に正しく仕えるためには、神のみたまによって生れなければならない。みたまは心をきよめ、思いを新たにし、神を知り愛する新しい能力をわれわれに与える。それは神のすべてのご要求によろこんで従う心をわれわれに与える。これが真の礼拝である。それは聖霊の働きの実である。(各時代の希望上巻225)

神の御霊に導かれている者はみな、神の子である。枝が生けるぶどうの木とつながっているように、彼らはキリストにつながっている。彼らは肉に従って歩むのではなく、御霊に従って歩み、世におけるキリスト教の生きた模範である。彼らはキリストのようであり、キリストが彼らの内におられるのでクリスチャンと呼ばれる。実際彼らは世の光であり地の塩である。御霊の助けと永遠の命のみ言葉が彼らの知恵であり力である。そして彼らは自発的で従順なのですべての真理に導かれる。(原稿2巻125)

聖霊の教えを喜んで受け入れる従順な者は「主に感謝せよ、主は恵みふかく、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない」と言いつつ主にあって喜ぶ(詩篇106：1)。もし神の民が、主がイエス・キリストを通して自分たちに注いでこられた現世と霊的な祝福の真価を正しく認めるなら、絶え間ない賛美が彼らの唇から出るであろうに。わたしたちには、エジプトの奴隷の身分から自由にされたイスラエル人の経験と同じように、霊的な奴隷の身分から解放された経験がある。わたしたちの抑圧の鎖は断ち切られ、不可能という紅海はわたしたちの前で開かれたのではなかったか。(教育における特別な証79)

伝道の働きのために与えられる御霊

「『わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう』。これは、イエスを信じる人々が受けようとしている御霊をさして言われたのである。すなわち、イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊がまだ下っていなかったのである。」（ヨハネ7：38、39）

わたしたちは世の光であるお方を信じるのであろうか。そしてイエスはわたしたちの内で、永遠の命にわき出る泉であられるであろうか。わたしたちがこの時代の緊急時に天来の知恵で対処することができ、世の動きにできる限り逆らうことができるようにと、わたしたちは聖霊を授けられているであろうか。見張り人にとって今は眠くなったり、シオンの城壁の歩哨であることをやめたりする時間はない。まもなく特別で急速な変化が起こる。そして、もし教会が眠っておらず、キリストに従う者が見張り祈っていれば、敵の動きを理解し正しく識別するための光を持つことができる。今こそ、あなたがたが各々その争闘で果たすべき役割に関して神のみ旨を知るために、熱心に主を求めるべきときである。そして働く機会を認めたときには、主の指示に従いなさい。キリストはご自分の民に「あなたがたは時のしるしを認めることができるか」と仰せになっている。これらのしるしに注意を払い「見張り人よ、今は夜の何時ですか」と言う教会の叫びに正しい信号を与え、誤った印象を与え、破滅をきたすようなことを示さないのは、見張り人の義務である。預言を勤勉に研究してきた者、今もしている者は「主の道を備え、その道をまっすぐにす」べきである。

神は一人びとりにその王国との係わりの中でなすべき働きを与えておられる。キリストのみ名を公言する一人びとりは義の原則に関心をもち、これを守る準備の出来た働き人でなければならない。福音の働きは牧師だけに頼るのではなく、あらゆる魂が神のみ事業を推進するにあたって活動的な役割を果たさなければならない。……クリスチャンはどのような召しを受けようと、世に対してキリストを代表するという主のためになすべき働きがある。わたしたちは職業が何であろうと、キリストへ魂を勝ち取るという最高の目的を持っている伝道者でなければならない。（レビュー・アンド・ヘラルド 1893 年 2 月 21 日）

偽りからの保護

「敵が洪水のように押し寄せるとき、主の御霊は彼に対して旗を掲げる。」（イザヤ 59：19 英文訳）

わたしは、昔のモーセの時代を示された。そして、神がパロの前でモーセに行わせられたしるしと不思議の大部分を、エジプトの魔術師たちがまねるのを見た。そして、神は聖徒たちの最後の救出の直前に、神の民のために力強く働かれる。そして、これらの現代の魔術師たちは、神の働きをまねることが許される。

その時が、間もなくやってくる。そして、われわれは、主の強い腕をしっかり握っていなければならない。なぜならば、悪魔のこうした大きなしるしは、みな、神の民をあざむいて、打ち負かすためだからである。われわれは神に頼り、悪人たちが恐れるものを恐れてはならない。すなわち、彼らの恐れるものを恐れず、彼らが尊ぶものを尊ばず、真理のために大胆で勇敢でなければならない。もしわれわれの目が開かれるならば、われわれのまわりに悪天使が群らがって、なんとかしてわれわれを苦しめて、滅びに陥れようとして新しい方法を考え出しているのを見ることであろう。また、われわれは、彼らの力からわれわれを保護している神の天使たちをも見ることであろう。神の目は、常に注意深く、イスラエルを幸福に保つために見守っている。そして、彼らが神に信頼するならば、神は、神の民を保護し救われるのである。主はせき止めた川を、そのいぶきで押し流すように、来られるからである。

「あなたは、魔法の力にとりつかれた国にいることを忘れてはならない」と天使が言った。われわれは目を覚まし、神のすべての武具を身につけ、信仰の盾を手に取らなければならない。そうすれば、われわれは敵に立ち向かうことができて、悪しき者の放つ火の矢もわれわれを害することができないことを、わたしは見た。（初代文集 132 ～ 134）

神の民はすべての世的なやり方を捨てて、神の戒めを守るべきである。行動の正しい原則を取り入れることによって、これらの原則が天に由来するがゆえに尊重すべきである。神への服従は金や銀よりもあなたにとって価値がある。キリストと共にくびきを負い、キリストの柔和とへりくだりを学ぶことによって、多くの人々の闘争を短縮する。なぜなら、敵が洪水のように押し寄せるとき、主の御霊が彼に対して旗を掲げて下さるからである。（教会への証 8 巻 95）

神が命じられるとおりに服従を教える

「わたしは主のみたまによって力に満ち、公義と勇気とに満たされ、ヤコブにそのとがを示し、イスラエルにその罪を示す。」（ミカ 3：8）

わたしの贖い主のみ名と力によってわたしは自分ができることを行なう。わたしは人々が聞こうと聞くまいが、あるいは耐えようが耐えまいが、神の御霊が命じられるとおりに、警告し、勧告し、譴責し、励ます。わたしの義務はわたしを喜ばせることではなく、わたしに仕事を与えておられる天父のみ旨を行なうことである。（教会への証 4 巻 232）

人々はキリストのみ言葉を聞くが、そのみ言葉を行う者ではない。信心深い生活の進歩的な特徴は、彼らの安逸を愛する利己的な習慣や欲望にとって快いものではない。彼らは、人の救い主の裂かれた体と流された血にあずかろうとしない。彼らは神の御子のかたちにかたどって真の高潔へと新たにされることができるように、「自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけ」ようとしない（ガラテヤ 5：24）。人々の心を試す神のみ言葉は彼らが足りない事を証明する。彼らは救い主の恵みにあずかっておらず、その救いに入る希望の基礎もない。「神からきた者は神の言葉に聞き従う」と、イエスは仰せになる（ヨハネ 8：47）。律法と証を受け入れ、神の真理に同化する人々は、神性にあずかっており、キリスト・イエスにある男女の満ち満ちたすがたに成長していく。そして、真理の言葉が彼らの聖化をなしつつある。彼らは聖潔を誇って公言することなく、キリストのみ働きをなしつつ柔和でしとやかな霊を表し、しみもしわもその類のものもなく、神のみ座の前に立つ。彼らは神の戒めへの服従を通し、神の力によって、神の御子を信じる信仰によって聖化され、栄化される。（ザ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 4 月 13 日）

わたしの命がながらえている間は、人々が聞こうと聞くまいが、耐えようが耐えなかろうが、神の御霊によって印象づけられたとおりに、警告の声を上げることをわたしは止めないと、あなたは確信してもよい。わたし自身には特別な知恵はない。わたしはただ主がわたしにお定めになったなすべき働きをするための主のみ手にある道具にすぎない。（教会への証 5 巻 691）

真の繁栄の秘訣

「万軍の主は仰せられる、これは権勢によらず、能力によらず、わたしの霊によるのである。」（ゼカリヤ４：6）

聖霊という大きな無限のたまものの中には、天のすべての資源が含まれている。神の恵みの富が、地上の人びとに流れないのは、神の側に何か制限があるためではない。喜んで受けさえするならば、だれでも聖霊に満たされるのである。（キリストの実物教訓 394、395）

わたしたちは神に選ばれた民として世の習慣、目的、ならわし、流行を真似ることはできない。わたしたちは世の手本を模倣して、成功のために外面的な現われに頼るがままに闇に取り残されてはいない。主はわたしたちの力がどこから来るのか仰せになっている〔ゼカリヤ４：6 参照〕。主がふさわしいと思われるとき、ご自分の方法を守る者に、彼らが善のための力強い感化を働かせることのできる力を与えられる。彼らは神に依存しているのであり、このお方に対して自分に委ねて下さったタラントの用い方の申し開きをしなければならないのである。彼らは自分が神の管理人であり、そのみ名を大いなるものにしようと努めるべきであることに気づかなければならない。

愛情を神に注いでいる者は成功する。彼らはキリストのうちに自己を見失うので、世的な魅力は忠誠から彼らを引き離す力はない。彼らは外観の見せびらかしは力を与えるものではないことに気づく。神の選ばれた民としてわたしたちがなすべき働きを正しく表すのは、誇示や外面的な見せかけではない。……

この時代の真理を信じていると主張する者が主の道に歩み、正義と公道を行なうかぎり、主が自分に繁栄をお与えになることを期待することができる。しかし彼らが狭い道からさまよい出るのを選ぶとき、彼らは自分自身と導きを求めて自分に期待する人々の上に破滅をもたらす。（教会への証７巻 90、91）

神がお選びになるのは、神に完全で徹底的な服従をお捧げする者だけである。主に従う者はこのお方の指示に従うにあたって、堅固でまたまっすぐでなければならない。人間の考案や計画に従うために少しでも道を外れるとき、彼らは信頼に価しない者となる。（SDA バイブルコメンタリー〔E.G. ホワイト・コメント〕２巻 1037）

精神的および道徳的活力

「心の腰に帯を締め、身を慎み、イエス・キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望んでいなさい。 従順な子供として、」（ペテロ第一 1：13、14）

よこしまな者は絶えず神を誤り伝え、許されていないことに思いを引きつける機会をうかがっている。できることなら、思いを世の事柄にしっかり固定させようとする。感情を興奮させ、情欲を起こし、あなたの益にならないことに愛情を固定させようとする。しかし、あらゆる感情、情欲を抑制し、理性と良心に静かに従わせるのは、あなたのなすべきことである。そのときサタンは思いを支配する力を失う。キリストがわたしたちに命じておられる働きは、わたしたちの品性の中にある霊的な悪に対して勝利を進行させていく働きである。生来の傾向が克服され、生来の気質がキリストの恵みによって変えられねばならない。食欲と情欲を克服し、意志をキリストの側にまったく置かなければならない。もし心が神の御霊の感化を受け入れるために開かれているなら、これは痛みを伴う工程ではない。（レビュー・アンド・ヘラルド 1892 年 6 月 14 日）

人々は違反によって堕落したけれども、キリストから道徳力を受けて忠誠に立ち返ることができる。彼らは主の代理者として聖霊を受けることができる。もし彼らが御霊の証を信じ、純潔と聖潔の道に従いつつ福音の要求に服従するなら、「主はあしたの光のように必ず現れいで」ることを知る（ホセヤ 6:3）。（ザ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1895 年 10 月 3 日）

わたしの罪が刺し通したお方を見上げるとき、上からの霊感がわたしの上に下る。そしてこの霊感は聖霊を通してあなたがた一人びとりにも下るのである。聖霊を受け入れないかぎり、あなたは魂の内に神の愛を持つことはできない。しかし、キリストとの生きたつながりを通して、わたしたちは愛と熱意と熱心さを吹き込まれる。わたしたちは太陽の光を反射することはできても、命を吹き込んでもらうことはできない大理石の塊のようなものではない。わたしたちは義の太陽の輝く光線に反応することができる。なぜなら、キリストがわたしたちの魂を照らすとき、このお方が光と命をお与えになるからである。（レビュー・アンド・ヘラルド 1892 年 9 月 27 日）

御霊は降伏を要求する

「神がわたしたちを召されたのは、汚れたことをするためではなく、清くなるためである。こういうわけであるから、これらの警告を拒む者は、人を拒むのではなく、聖霊をあなたがたの心に賜わる神を拒むのである。」(テサロニケ第一4：7、8)

パウロの聖化は自己との絶え間ない戦いであった。「わたしは日々死んでいるのである」と彼は言った(コリント第一15：31)。彼の意志と望みは日々義務と神の御旨に衝突した。しかし自分の傾向に従う代わりに、彼は自分の性質にとって不愉快であり十字架につけられるようなものであっても神の御旨を行った。もしわたしたちがキリスト・イエスにあるわたしたちの高い召しの目標に押し進みたいのであれば、わたしたちは自己がまったく空になり、恵みの黄金の油に満たされていることを示さなければならない。神はみ摂理を通してわたしたちを取り扱っておられる。永遠の昔からこのお方はわたしたちをご自分の忠実な子として選んでおられる。このお方はわたしたちのために御子を死に渡されたが、それはわたしたちが真理への服従を通して聖化されるためであり、自己はことごとくどんなに小さなものも清められるためであった。今このお方はわたしたちに個人的な働き、個人的な自己降伏をお命じになる。わたしたちは聖霊に支配されるべきである。神を信じると公言するわたしたちが、そのみかたちに一致するときのみこのお方は名誉を受けることがおできになる。わたしたちは世に聖潔のうるわしさを示すべきであり、キリストのような品性を完成させないかぎり、わたしたちが神の都の門をくぐることは決してない。もしわたしたちが神を信頼して聖化のために努力するなら、それを受ける。そのとき、わたしたちはキリストのための証人として、神の恵みがわたしたちの内に働いてきたことを知らせることができる。(ユース・インストラクター1899年8月24日)

キリストの宗教を持つということは、あなたが無条件に自分のすべてを神に捧げ、聖霊の導きに同意してきたことを意味する。聖霊という賜物を通して道徳力があなたに与えられる。そして神の奉仕のために過去に委ねられたタラントがあなたにあるだけでなく、その能力が著しく増し加えられる。わたしたちの力をすべて神に捧げると、人生の問題は大いに単純になる。それは数知れぬ生来の心の感情との葛藤を弱め、短くする。宗教は老若の魂をキリストに結びつける黄金の紐である。宗教を通して、喜んで服従する者は暗く入り組んだ道のりを神の都まで安全に導かれるのである。(同上1893年2月2日)

改心の証拠

「神が御霊をわたしたちに賜わったことによって、わたしたちが神におり、神がわたしたちにいますことを知る。」(ヨハネ第一4：13)

キリストを信じる真の信仰を働かせる者は、品性の高潔さと神の律法への服従によってそれを明らかにする。彼らはイエスの内にあるがままの真理は天に達し、永遠にまで及ぶことを悟る。クリスチャンの品性はキリストの品性を表し、恵みと真理に満ちていなければならないことを理解する。彼らには決して消えることのない光を支える恵みの油が与えられている。信者の心に宿る聖霊は彼をキリストにあって完全にする。男女が興奮するような状況の下で深い感動を表すからといって、彼らがクリスチャンであるという間違えようのない証拠ではない。キリストのような者は魂の内に深く確固とした根気強い要素を持ちながら、しかも自分自身の弱さを自覚しているので、悪魔に欺かれたり、誤った方向に導かれたりすることがなく、自分を信頼しない。彼には神のみ言葉の知識があり、イエス・キリストのみ手に自分の手を置きこのお方をしっかりとつかむ時だけ安全であることを知っている。(ユース・インストラクター 1895年9月17日)

神の聖なる教訓を守るところはどこであっても、神のみ言葉と聖霊が人の心に浸透し、生来の品性を変えた証拠である。(ザ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1896年4月2日)

愛によって働き魂を清める信仰が経験の中になければならない。キリストの愛は肉の傾向を征服する。真理はそれ自体の中に天に起源がある証拠をに担っているばかりでなく、神の御霊の恵みによって魂を純潔にする力があることを証明する。主は、わたしたちが自分の困難と罪の告白をすべて携えて日々ご自分のところへ来ることを望んでおられる。そうすればご自分のくびきを負い、ご自分の重荷を担うことにある休息をわたしたちに与えることがおできになるからである。恵み深い感化力を伴った主の聖霊が魂を満たし、あらゆる思想がキリストに従うよう導かれる。(教会への証5巻648)

イエスの御霊はその愛、その服従、その喜びでクリスチャンを満たす。(ザ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1891年12月28日)

御霊は何を表すか

「ところが、わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって、神から賜わった恵みを悟るためである。」(コリント第一 2:12)

人が自己をまったく空にし、あらゆる偽りの神が魂から追い出されるとき、その空間はキリストの御霊が注ぎ込まれることによって満たされる。そのような人には魂を汚れから清める信仰がある。彼は聖霊に一致し、聖霊のことを思う。自己にまったく信頼せず、キリストがすべてのすべてである。彼は絶えず開かれている真理を柔和に受け入れ、すべての栄光を主に帰す。(福音宣伝者 287)

神の律法の変わらない主張を理解するすべての者は御言の中に与えられているあらゆる要求に絶対的な服従をしよう。聖霊による罪の自覚は警告であり、無視することは危険である。(サザン・レビュー 1899 年 12 月 5 日)

神の御霊があなたに真理を確信させている間に、難癖をつけるために立ち止まらないで、信じなさい。あら捜しをしないで、証拠に聞き従いなさい。あなたの自尊心をへりくだりに譲り、あなたの偏見を公平と取り替えなさい。血肉に相談しないで、神にすべてを明け渡しなさい。聖書をあなたの導き手とし、「主よ、あなたはわたしに何をおさせになりたいのですか」と熱心に問いなさい(使徒行伝 9:6 英文訳)。あなたがひとたび生来の独立心と自分の意志を明け渡し、子供のように従順な服従と取り替え、喜んで教えを受けるなら、まことの羊飼いが「これは道だ、これに歩め」と仰せになる声をあなたは聞くようになる(イザヤ 30:21)。キリストはうぬぼれている者、頑固なものを教えるおつもりはない。このお方が公義に導き、ご自分の道を教えると誓っておられるのは、柔和な者だけである。もしあなたが真理を調べているなら、服従は難しくない。もし主人であるお方のみ旨を本当に知りたいなら、あなたはそれを感謝して受ける。わたしたちはキリストの学校の生徒である。イエスへの本物の愛は必然的に真理への愛を造り出す。あなたの心に真理を蓄え、知識を求めなさい。「わたしは心をつくしてあなたを尋ね求めます。わたしをあなたの戒めから迷い出させないでください。」「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください。」これをあなたの日々の祈りにしなさい(詩篇 119:10、18)。(レビュー・アンド・ヘラルド 1875 年 12 月 2 日)

任務と慰め主

「人々があなたがたを連れて行って引きわたすとき、何を言おうかと、前もって心配するな。その場合、自分に示されることを語るがよい。語る者はあなたがた自身ではなくて、聖霊である。」(マルコ 13：11)

わたしたちはまだまだしきりに自分の嘆願をもってせがみ、聖霊の賜物をこのお方に求めようとしていない。主はこのことでわたしたちがご自分を煩わせることを望んでおられる。わたしたちが御座に来てしきりに嘆願することを望んでおられる。神の改心させる力がわたしたちの教会全体に感じられる必要がある。得ることのできる最も価値のある教育は、今は暗闇である場所へ真理のメッセージを携えて出て行くことの中に見出される。ちょうど最初の弟子たちがキリストの任務に従って出て行ったのと同じように、わたしたちも出て行かなければならない。……「わたしがあなたがたをつかわすのは、羊をおおかみの中に送るようなものである。だから、へびのように賢く、はとのように素直であれ」と、このお方は仰せになった。……

主はわたしたちがご自分と調和することを望んでおられる。もしわたしたちがこれをするなら、その御霊がわたしたちを支配する。(クリスチャン教育の基礎 537、538)

神のみ言葉の光の中での綿密な自己吟味が必要であるが、それはわたしたちが果たすべききわめて重要な働きをすることができるためである。(サザン・レビュー 1899 年 12 月 5 日)

人の罪のために死んでいかれる十字架上の神の御子の啓示は、無限の愛の力によって人々の心を引き寄せ、罪人に罪を確信させる。キリストは律法が犯されたので死なれたが、それは罪を犯した者がその極悪の罪の罰から救われることができるためであった。しかし歴史は、世界を回復するよりは滅ぼすほうがたやすいことを証明している。なぜなら、地を天と結びつけ、人を神と結びつけるために来られた栄光の主を、人々が十字架につけたからである。(同上 1890 年 8 月 26 日)

〔キリスト〕は、ご自分に従う者が議会や裁判官の前に立たなければならないとき、何を語るべきかを考える必要はないと約束なさった。わたしがあなたを教えるであろうと、このお方は仰せになった。わたしがあなたを導く。神が教えられるということがどういうことであるかを知って、わたしたちは天来の知恵の言葉が思い起こされるとき、それらを自分自身の思想とは区別するのである。わたしたちはそれらを神のみ言葉と理解し、神のみ言葉の中に知恵と命と力を見る。(クリスチャン教育の基礎 538)

聖霊の力のもとで

「主なる神の霊がわたしに臨んだ。これは主がわたしに油を注いで、貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね」(イザヤ 61：1)

キリストは人々のいるところで彼らに会われた。このお方は最も力のこもったしかも単純な言葉で彼らの思いにはっきりとした真理を示された。このお方を信じる信仰を通して、身分の低い貧しい者や、最も無学な者が、神の最も高められた真理を悟ることができた。だれもその意味に関して学問のある博士に意見を聞く必要はなかった。キリストは、無知な者の知らない神秘的な推論であるいは不慣れな博識な言葉を用いて、彼らを当惑させることはなさらなかった。世がかつて知った最も偉大な教師は、その教えにおいて最も明確で単純で実際的であられた。

イエスは絶えず一つの目的のために働かれた。その力はすべて人々の救いのために用いられ、その生涯のあらゆる行為はその目的のためであった。このお方は出かけるとき、ご自分に従う者を教えつつ徒歩で旅行なさった。その衣服はほこりにまみれ旅で汚れており、その外観は人を引きつけるものではなかったが、その聖なる唇から語られる単純で鋭い真理は、たちまち聴衆にその外観を忘れさせ、人物ではなく、この方の教える教理に魅せられるのであった。(福音宣伝者 1892 年 393)

世の多くの人々は、それ自体は悪ではない事柄に愛情を注いでいる。しかし、彼らはこれらのことに満足し、キリストが与えたいと思っておられるもっと偉大なもっと気高い良いものを求めない。わたしたちは今彼らが大事にしているものを彼らから荒々しく奪ってはならない。真理の美しさと尊さを彼らに示しなさい。キリストをその麗しさの内に見つめるようにと彼らを導きなさい。そうすればこのお方から彼らの愛情を引き離すあらゆるものから彼らは離れるであろう。これが救い主の人々を取り扱われる原則であり、教会に持ち込まれなければならない原則である。……

世は悲しみと苦しみと罪の重荷を抱えている男女に満ちている。神は、彼らの重荷をとりさり、休息を与えるお方を彼らに示すために、ご自分の子らをお送りになる。助け、祝福し、癒すことがキリストの僕の任務である。(教会への証 6 巻 54、55)

必要条件と約束

「もし、あなたがたが快く従うなら、地の良き物を食べることができる。」（イザヤ1：19）

わたしたちはキリストのそば近くを一瞬一瞬注意深く歩む必要がある。キリストの御霊と恵み、愛によって働き魂を清める信仰が人生において必要である。

わたしたちは、神がご自分の民に指示なさる聖なるご要求をはっきりと理解する必要がある。神のご品性の写しである律法をだれも理解し損なう必要はない。石の板に神の指で書かれたみ言葉は、ご自分の民に関するこのお方の意志を完全に表しているので、だれも間違いを犯す必要はない。（セレクテッド・メッセージ1巻225）

失われた世界への愛が、日々〔キリストの〕生涯のあらゆる行為に表された。その御霊の息吹を受ける人々はキリストがその内で働かれた人々と同じ方針で働く。……

神の律法への違反のゆえに、魂が神への悔い改めの必要を知り、キリストの功績はこのお方によって神に来るすべての者を最大限度にまで救う効力があることを悟って、信仰によってキリストを見るよう導かれるのはこのお方の恵みによってである。（ユース・インストラクター1894年8月16日）

すべての者が今仕事に取りかかり、生きた者らしく行動すること、滅びつつある魂の救いのために労することが重要である。もし教会員全員が主の働きのために来るなら、わたしたちがこれまで目撃したことがないような主の働きのリバイバルを目にすることであろう。神はこのことをあなたと教会員一人びとりに要求なさる。神の召しに従うことがあなたにとって最善であるかどうかを決定するのは、あなたにまかされてはいない。服従が要求されているのである。そして、あなたは従わないかぎり、あなたは中立よりも悪い立場に立っているのである。神の祝福を受けないかぎり、あなたにはこのお方ののろいがある。あなたがたは快く従うようにとこのおかたは要求なさり、それはあなたが地の良き物を食べることができるためであると仰せになる。……

あなたには主のぶどう畑における個人的な働きがある。あなたはあまりにもあなた自身のことを考え、思い煩っている。あなたの心をととのえ、それから熱心になりなさい。「主よ、わたしに何をおさせになりたいのですか」と問いなさい（使徒行伝9：6英文訳）。（教会への証2巻166）

第９課　印する働きの終了

「印する働き」

恩恵期間が閉じる前に、印する働きは終了します。神の子らの多くはその前に印されていますが、そのとき、最終的なテストの下で、まだ堕落した教会にいる神の子らは真理のために自分たちの立場を取るよう呼び出されるのです。神の印もしくは獣の刻印が、自分たちの選択にしたがって、人々に押されます。キリスト教世界はみな自分の決断を下さなければならないのです。

「主なる神はねたむ神であられる。しかし、このお方はこの時代のご自分の民の罪と不法を長く忍ばれる。もし神の民がご自分の勧告のうちに歩んできたなら、神の働きは前進してきたことであろう。真理のメッセージは全地のおもてに住むすべての人々に伝えられていたことであろう。……しかし、民が昔のイスラエルのように不従順で、感謝せず、神聖でないために、時が延ばされてきた。それは最後のあわれみのメッセージが大いなる声で宣布されるのをすべての人が聞くことができるためである。主の働きは妨げられ、印する時は遅らされてきた。多くの人々はまだ真理を聞いたことがない。しかし主は彼らに聞いて改心する機会を与えてくださる。」（信仰によってわたしは生きる 288）

「もうすぐ神の民であるすべての人が、自分に神の印を受けるようになる。ああ、それがわたしたちの額に押されるように！神のしもべたちの額に印する天使が進んでいくときに、自分を通り過ごして行ってしまうと考えることに、だれが耐え得よう？」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1889 年 5 月 28 日）

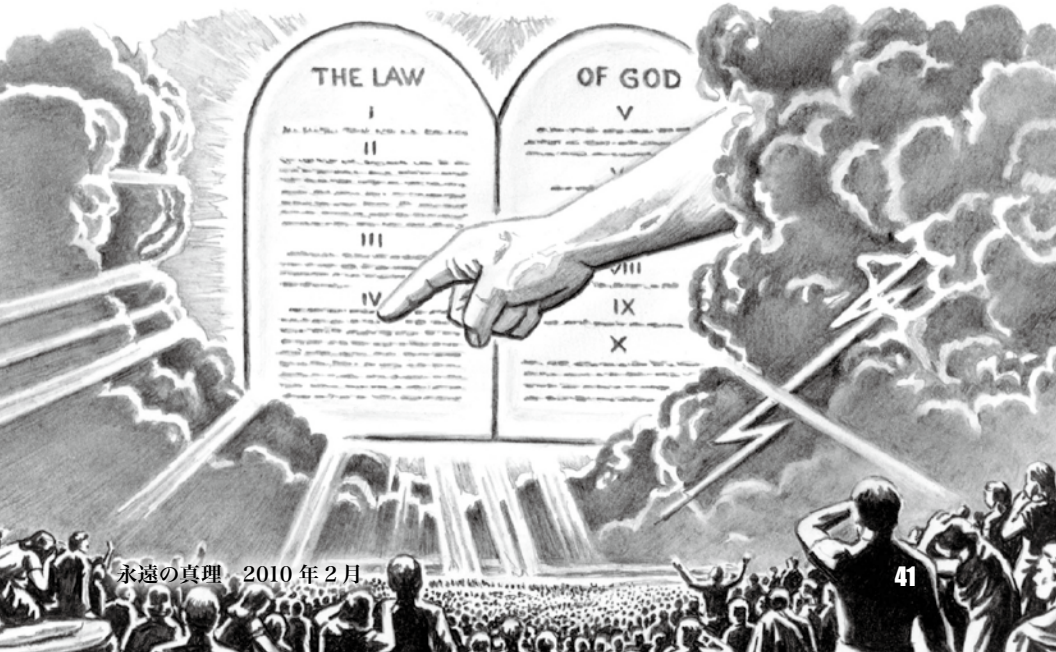
「わたしたちは聖霊の祝福について語るかもしれないが、自分たち自身が受ける用意をしていないならば、わたしたちの働きは何の役に立とう？わたしたちは全力を尽くして、キリストの高さにまで至る男女になろうと奮闘しているであろうか？わたしたちは自分たちの前に置かれた目標―このお方のご品性の完全―を目指して走り、このお方の満ちみちた徳を求めているであろうか。主の民がこの目標に達したとき、彼らはその額に印されるのである。聖霊に

満たされて、彼らはキリストにあって完全となり、記録する天使が、『事はすでになった』と宣言するのである。」(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1902 年 6 月 10 日)

「世界は、恐ろしい結果をもたらす問題に直面しようとしている。地の権力者たちは、合同して神の戒めに逆らって戦い、『小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に』、偽りの安息日を守ることによって教会の習慣に従うよう命じるのである (黙示録 13:16)。これに従わない者はすべて、法律上の刑罰を受ける。そして、ついには、彼らは死刑に値する者であると宣告される。他方、創造主の安息日を守ることを命じる神の律法は、それに対する服従を要求し、その戒めを犯すすべての者に神の怒りを警告する。

こうして問題点が明らかに示されるとともに、だれでも神の律法をふみにじって人間の法令に従うものは、獣の刻印を受ける。彼は、神の代わりに服従することを選んだその権力に対する忠誠のしるしを受けるのである。……

しかし、真理が人の心と良心に明らかに示され、そしてそれが拒否された上でなければ、だれひとりとして神の怒りを受けることはない。現代に対する特別の真理を聞く機会がこれまでになかった者が、大ぜいいる。第四条の戒めに従うべきことの真の意味が、まだ彼らに示されていない。すべての人の心を見ぬき、あらゆる動機を探られる おかたは、真理を知りたいと願っている者をだれ一人として、争闘の論点について欺かれるままにしてはおかれな



い。法令は、盲目的に人々に強制されることはない。すべての者は、賢明な決断を下すに十分なだけの光が与えられるのである。

安息日は、特に論争点となっている真理であるから、忠誠の大試金石となる。最後の試練が人々を襲うとき、神に仕える者と神に仕えない者の区別が明らかになる。第四条の戒めに反して、国家の法律に従って偽りの安息日を守ることは、神に敵対する権力に忠誠を尽くすという表明であり、一方、神の戒めに従って真の安息日を守ることは、創造主に対する忠誠の証拠である。一方は、地上の権力に服従するしるしを受け入れることによって、獣の刻印を受け、他方は、神の権威に対する忠誠のしるしを選んで、神の印を受けるのである。」(各時代の大争闘下巻 374、375)

これらの記述からわたしたちは最終的なテストが日曜休業令の施行であることがわかります。自分たちの準備の働きを終え、後の雨を受けた神の民は、大いなる叫びをもってメッセージを伝え、印を受けるためにバビロンから出るようにと神の子らを呼ぶのです。後の雨は、印する働きが終了する前に注がれます。次の証からそれを理解することができます。

「働きが閉じられ、神の民の印する働きが終了する前に、わたしたちは神の御霊の注ぎを受けるのである。」(ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 111)

「生きた義人は恩恵期間が閉じる前に神の印を受けるのである。」(主よ、来りませ 211)

神の戒めに忠実でありながら (牧師への証 234)、まだ残りの教会の一部となっていない人々は、彼らが残りの民に加わるや否や「生ける神の印」を受けます (初代文集 261、教会への証 5 巻 505)。そのとき、腰に墨つぼを持った人によって象徴されている天使は (エゼキエル 9:11)、地上から戻ってきます。証の書は次のように述べています。

「わたしは天使たちが、天をあちこちと飛びまわっているのを見た。墨入れを持ったひとりの天使が、地上から帰ってきて、自分の働きの終わったことを報告した。そこで聖徒の数がかぞえられて印された。すると、それまで十誡の納められている箱の前で奉仕しておられたイエスが、香炉を投げ捨てられるのをわたしは見た。」(初代文集 279)

ここで、「そこで聖徒の数がかぞえられて印された」という言葉に注目してください。最終的なテストがもたらされるとき、すべての忠実な安息日遵守

者は数がかぞえられて印されるのです。この働きは、殺す働きが始まる前に終了します。(エゼキエル 9:4-6 参照)。恩恵期間が閉じるとき、印する働きは完了しているのです。わたしたちは次のようにあるのを読みます。

「イエスは彼の聖なる神殿におられて、今、われわれの犠牲、われわれの祈り、われわれの過ちと罪の告白を受けいれられる。そして、彼が聖所を去られる前に、イスラエルのすべての罪をゆるして、消し去られるのである。イエスが聖所を去られると、聖であって義なる者は、聖で義なるままである。なぜなら、そのとき彼らのすべての罪は消し去られて、生ける神の印を押されているからである。」(初代文集 114、115)

「この悩みの時が来ると、すべての人の判決は決定されている。もはや恩恵期間はなく、もはや悔い改めない人々のためのあわれみはない。生ける神の印は、その民の上に押されている。自分たちでは、龍の軍勢によって先導された地の権力との死闘において防御できないこの小さい残りの民は、神を自分たちの防御とするのである。」(教会への証 5 巻 213)

「わたしたちがそれ (悩みの時) に入る直前に、わたしたちはみな生ける神の印を受ける。そのとき、わたしは四人の天使が四方の風を引き留めているのをやめるのを見た。」(ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄｺﾒﾝﾄ]7 巻 968)

14 万 4 千人の印する働きについてのこの研究において、四つの重要な点を考慮する必要があります。

第三天使のメッセージは次のように記載された民を整えます

「三重のメッセージが伝えられる結果として、『ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある』と言われているからである。」(各時代の大争闘下巻 177)

そして戒めを守る神の民は印された人々です

「しかし、彼が非常な興味をもって見ていると、彼は神の戒めを守る民の一団を見た。彼らはその額に生ける神の印が押されていた。そして彼は言った、『ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある。またわたしは、天からの声がこう言うのを聞いた、「書きしるせ、『今から後、主にあって死ぬ死人はさいわいである』」。御霊も言う、「しかり、彼らはその労苦を解かれて休み、そのわざは彼らについていく」』。」(教会への証 6 巻 15)

生ける神の印が額に押されたこれらの勝利者たちは「残りの民」と呼ばれています

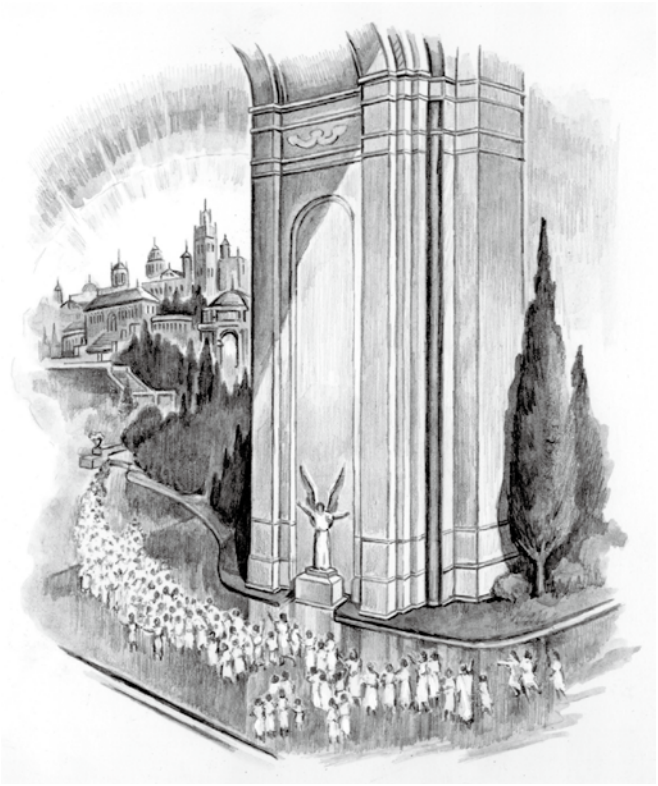
「さげすまれた残りの民は栄光に輝く服をまとい、もはや世の堕落に汚されることはない。彼らの名は小羊の命の書にとどめられ、各時代の忠実な人々のうちに登録されている。彼らは欺瞞者のたくらみに抵抗してきた。彼らは龍が吠えても自分たちの忠誠を変えなかった。いま彼らは永遠に誘惑者の策略から安全に守られている。彼らの罪は罪の創始者に移されている。そして残りの民はただ許され、受け入れられたばかりでなく、誉れを受ける。彼らの頭には『清い帽子』がかぶせられている。彼らは神のための王また祭司となるのである。サタンが自分の告発をもって迫り、この一群を滅ぼそうとしている一方で、聖天使たちは、姿は見えないが、あちらこちらを行きかい、彼らに生ける神の印を押しているのである。」(教会への証 5 巻 475)

生ける神の印を押された 144,000 人は、教会の中にいる忠実な民の一団ではありませんが、残りの教会自体は、その最終的な勝利のうちにいます

「預言者ヨハネは、聖なる幻の中に神の残りの教会 の究極的な勝利を見た。彼はこう記している。『わたしは、火のまじったガラスの海のようなものを見た。そして、このガラスの海のそばに‥‥ うち勝った人々が、神の立琴を手にして立っているのを見た。彼らは、神の僕モーセの歌と小羊の歌とを歌って 言った、「全能者にして主なる神よ。あなたのみわざは、大いなる、また驚くべきものであります。 万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります」』(黙示録 15：2、3)。「なお、わたしが見ていると、見よ、小羊がシオンの山に立っていた。また、十四万四千の人々が小羊と共におり、その額に小羊の名とその父の名とが書かれていた」(黙示録 14：1)。この世において彼らの心は神にささげられていた。彼らは知性と心で神に仕えた。そして

今、神は『その額に』神の名を記すことがおできになる。」（各時代の大争闘下巻 296、298）

「これらの人々は、額に御父の名を記され、小羊と共にシオンの山に立つ人々である。彼らはみ座の前で新しい歌をうたう。その歌は、地から贖われた 144,000 人以外の人はだれも歌うことができない歌である。……いまや本当に「よいしるしとなるべき」残りの民であり、彼らの旅路の涙と屈辱は、神と小羊のみ前の喜びと誉れに替わるのである。」（教会への証 5 巻 475、476）



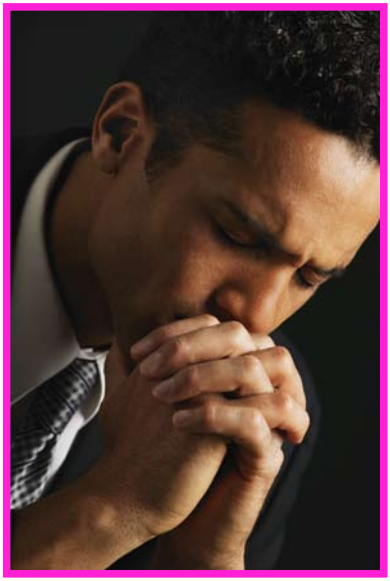
第三九章　成功の要因である意志の力

「子をその行くべき道に従って教えよ」

どの子供も意志の力を理解しなくてはならない―意志は人間の本性の中で、他のすべての能力を従わせる支配的な力です。意志は、好みや傾向といったものではなくて、人間を神に従わせるか従わせないかの、決定的な力です。

どの子供も真の意志力を理解しなければなりません。この賜物にどれほど大きな責任が含まれているかを彼らに認めさせなければなりません。意志は……決定の能力すなわち選択の能力です。

意志を神に従わせるとき成功する―理性を備えた人間ならだれでも正しいことを選択する能力があります。人生のあらゆる経験において神は「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい」と仰せになっています（ヨシュア記 24:15）。だれでも自分の意志を神の意志と一致させ、神に従うことを選び得るのです。このように自分自身を神の力に結合させるとき、われわれは何物によっても悪を強制されることのない境地に立つことができます。どの青年もどの子供も、神の助けによって誠実な品性を形成し、有益な人生を送り得る能力があたえられています。



このような教えによって子供の自治心を訓練する親や教師は最も有用なそして永久的な成功をかち得る者となります。表面だけしか見ない人には

その働きは最上の利益には見えないかもしれず、また子供の心や意志を絶対の権威の下に押えている人の働きほどには高く評価されないかもしれませんが、しかしそのすぐれた教育法の結果は後になって現われるでしょう。

子供の意志力を弱めるのではなく、指導する—意志の力をすべて大切に守ってやりなさい。人間にはそれが全部必要だからです。そしてそれに正しい指導を与えてやりなさい。神聖な宝を扱うように、子供の意志を賢明にやさしく扱いなさい。それを粉々に砕いたりしないで、子供が責任を負える年頃になるまで、訓戒と真の模範によって、それを賢明に形造ってやりなさい。

子供たちは幼い時から、意志と性向を親の意志と権威に従わせるようしつけられる必要があります。親は、子供たちにこのことを教えるとき、子供たちが神のみ心に服従してそのご要求に従い、キリストの家族の一員としてふさわしい者になるよう、教育しているのです。

押しつぶすのではなくて、導いてやる—親も教師も、どうすれば子供の発達を不当な干渉によって妨げることなく導くことができるかということを研究しなければなりません。干渉しすぎることは放任と同じく弊害があります。子供の意志を抑圧しようと努力することは、はなはだしいあやまちです。人の心は十人十色です。強制して表面は服従させることができたように見えても、たいていの子供はその結果もっと固い反抗心を持つようになります。親や教師が子供をうまく自分の思い通りにさせることができたとしても、結果は子供にとって有害であることに変わりはないのです。……

ある生徒にとっては他の生徒よりも意志の服従が困難な場合があるので、教師はなるべく要求に従いやすいようにしなければなりません。われわれは、意志をみちびき養い育てるべきで、これを無視したり押さえつけたりしてはなりません。

指導しなさい、しかし強いてはならない—あなたがたの監督下にある子供たちに、あなたがた自身と同様、個性を持たせてやりなさい。いつも子供たちを導くようにしてやらねばなりませんが、しかし決して強いてはなりません。

意志を働かせることは、心を広くし強くする—子供が自分の意志を持たないように……しつけることもできます。個性さえも、しつける人の中にのみ込まれてしまい、意志は事実上、教える人の意志に支配されてしまいます。このように教育された子供たちは、常に、精神的な活力にも、個人的な責任感にも欠けています。こういう子供たちは、理性や原則で動くようには教育されてきませんでした。彼らの意志は他人の意志によって支配され、彼らの精神は、働かせることによって広くされ強められることができたはずなのに、呼び起こされることがなかったのです。彼らは、彼ら自身の心身の能力に対する指導や訓練を受けてこなかったので、いざという時に最大限の力を発揮することができません。

意志が衝突するとき—子供が強情な場合、自分の責任を理解している母親なら、それが自分から受け継がれたものであることを悟るでしょう。彼女は子供の意志を、砕かれねばならないものとは考えません。母親のがんこさが子供のがんこさとぶつかるとき、母親の安定した大人の意志が子供の無分別な意志とぶつかるとき、年と経験にまさる母親が子供を支配するか、それとも子供の若く未熟な意志によって老練な意志が支配されてしまうか、という分かれ目のとき、そのようなときには大きな知恵が必要です。なぜなら、

ここで愚かな処置をとったり、手きびしく強制的に従わせたりするなら、子供はこの世においても、来世のためにも、だめになってしまうからです。思慮を欠くことによって、すべてが失われてしまうかもしれないのです。

こういう危機は、めったに招いてはなりません。母にとっても子にとっても、たいへんな戦いだからです。このような衝突を避けるために、十分な注意を払う必要があります。しかし、いったんこのような衝突が起きたなら、子供を親の、よりまさった知恵に従わせるようにしなくてはなりません。母親は自分の言葉を完全に抑制するようにしましょう。大声で命令したりしてはなりません。子供に反抗心を起こさせるようなことは、何もしてはなりません。子供をイエスのもとに引きつけるようなやり方で取り扱うにはどうしたらよいか、研究する必要があります。サタンが子供の意志を打ち負かすことがないよう、母親は信仰をもって祈りましょう。天のみ使いたちがその場を見守っています。母親は、神が自分の助け主であられること、そして愛こそ自分を成功させるものであり、自分の力であることを、悟らなければなりません。賢明なクリスチャンである母親は、子供を無理に服従させるようなことはしません。彼女は祈ります。そして、祈っているうちに、自分の内の霊的な命が新しくされるのに気づきます。そしてまた、自分の中に働いている力が、同時に子供の中にも働いているのを知ります。子供は無理に強いられる代わりに、導かれ、前よりも穏やかになります。戦いは勝利を収めます。やさしい思いやり、しんぼう強い行為、賢明に抑えた言葉、それら一つ一つが銀の絵の中の金のりんごのようです。母親は、言葉では言い表わせない貴重な勝利を得ました。彼女は新たな光を得、経験を豊かにしました。「すべての人を照すまことの光があって、世にきた」とある「まことの光」が、彼女の意志を征服しました。雨の後の太陽の輝きのように、あらしの後には平安があります。親は若々しい感受性をできるだけ保つ―若々しい感受性をできるだけ保って、とげとげしい、同情心のない性質にはならないようにすることがどんなに大切か、気づいている人はほとんどいません。神は、親が、子供の優しい単純さと、大人としての力や知恵や円熟とを、共に持つようにさせたいと望んでおいでになるのです。本当の子供時代というものを経験しなかった大人たちがいます。しだいに芽を出していく時期の、自由と単純さと新鮮さを一度も味わわなかった人たちです。彼らは叱られ、冷たくあしらわれ、小言を言われ、ぶたれ

て、しまいには、子供らしい無邪気さと信頼に満ちた率直さが、恐れ、羨望(せんぼう)、しっと、ごまかしに変わってしまいました。このような人たちが、大人になって、自分のかわいい子供たちに幸福な子供時代を送らせたいと思っても、なかなかできにくいものです。

大きな間違い—子供が支配権を握って、家庭を支配するようなことは、たいへんな間違いです。これは意志力というすばらしいものを、正しくない方向に向けることです。しかしこのようなことがこれまでされてきましたし、これからもずっとなされるでしょう。父親も母親も盲目で洞察力がなく、先のことが見分けられないからです。

泣く子の言いなりになる母親—あなたのお子さんを……正しく導くには、賢い手が必要です。彼はほしいものがあるとき、泣けばそれが手に入ったので、とうとうそんなくせがついてしまいました。泣けば父親がきてくれました。何度も何度も、子供の聞いているところで、彼がどんなに父親を求めて泣き叫ぶかが話されてきたので、彼はいつも必ずそうするようになってしまいました。もしわたしが親なら、三週間あれば彼は変わるでしょう。わたしは彼に、わたしの言葉が絶対従わねばならないものであることを理解させます。それから、やさしく、けれど断固として、自分の目的を実行していきます。わたしは自分の意志を子供の意志に従わせるようなことはしません。ここにあなたがしなければならない仕事があります。それをしっかりとらえてこなかったた

めに、あなたは多くのものを失ってきました。

甘やかされた子供は一生不幸—注意深く祈りをもってしつけられることをされない子供はみな、この試練の時代にあって不幸であり、主が天の家族に加えることがおできにならないような、好ましくない品性をつくってしまいます。甘やかされた子供は、一生苦労しなくてはなりません。試練のとき、失意のとき、誘惑のとき、彼は、未熟で間違った方向に向けられた自分の意志に従ってしまいます。自分たちの思うがままにさせられている子供たちは、決して幸福ではありません。抑制されない心には、安らぎと満足がないのです。品性が、わたしたちの存在を支配している賢明な法則に調和するようになるためには、心も精神も訓練され、正しく抑制されるようにならねばなりません。不安と不満は、甘やかしとわがままの結果です。

多くのもめごとの背景—教会の繁栄を脅かすいろんなもめごと、未信者をつまずかせ、疑惑と不満をいだかせたまま去らせる悲しむべきもめごとは、たいてい、幼い時に親が甘やかした結果としての、抑制されない反抗的な精神から起きるものです。心が感受性に富み、正しい感化を受けやすく、大好きな母親の意志に従順であった子供時代に、気短な感情を押さえるようにしてやればそれができたはずなのに、そうしなかったために、どれだけ多くの人生が破滅し、どれだけ多くの犯罪が行われていることでしょう。子供たちに対して本当に効果のあるしつけをしなかったために、数えきれないほどの悲惨が生じています。

12 章　失業者や家がない人への助け (II)

「健康と幸福」

家がない人々に対する好機

広い自然界には、苦労をしている人や貧困者たちが自分たちの家を見つけるのに十分広い場所が残っている。自然のふところにはこうした人々を養うのに十分な資源がある。その宝を収穫する勇気と意志と忍耐のある人にはだれにでも地の深いところに祝福が秘められている。

エデンにおいて神が人にお命じになった仕事である、地を耕作することは多くの人に生計を得させる機会のある分野を開くものである。

「主に信頼して善を行え。そうすればあなたはこの国に住んで、安きを得る」(詩篇 37:3 英訳・あなたは必ず養われる)。

わずかな収入をねらって都市に密集している幾千幾万の人は、この土地耕作によって働くことができよう。そのわずかな収入も食物のために費されず、霊と肉とを共に滅ぼすものを手に入れるために酒屋の銭箱の中に入れられる場合が多いのである。

多くの人は労働を苦役とみなし、正直な労働をするよりも策略によって生計をたてようとしているが、働かずに生活しようというこの欲望は悲惨と罪悪、犯罪への門戸をほとんど無制限に開くものである。

都市の貧民窟

大都市には動物よりも劣った取り扱いを受け、それ以上に考慮されていない人が多い。悲惨な長屋、その多くは湿気と汚れで悪臭を放つ暗い地下室であるが、その中に雑居している家族のことを考えてごらんなさい。こうしたあわれな場所で子供が生れ、成長し、死んでいくのである。神が人間の心

を喜ばせ向上させるためにおつくりになった自然界の美をこうした人は少しも見ることがない。ぼろ着物をまとい、半ば飢え、罪悪と堕落の中に生活し、周囲の悲惨と罪の中に品性が形成されていく。子供らが神の名を聞くのは冒涜的な言葉がかわされるときだけである。汚れたののしりと、のろいの言葉が子供の耳を満たす。酒やたばこの臭気、嘔吐を催す悪臭、道徳の腐敗が子供の感覚を堕落させる。こうして多くの人が犯罪者になるように訓練され、彼らを悲惨と堕落の中に放置した社会の敵となるように教育されるのである。

しかし、貧民窟のすべての貧困者がこういう人とはかぎらない。敬けんな人が疾病や災難から、またしばしば他人を利用して生活する者の不正直な策略のために貧困のどん底に落されることもある。正直で善意にみちた多くの人が、実業的な教育に欠けているために貧しくなる。こうした人は無知なために生活の困難と戦うことができない。都会にふらふらと出て行くが、彼らの多くは職が見いだせないばかりか、罪悪に満ちた声や光景に囲まれ、恐ろしい誘惑の対象となる。彼らは、不道徳な、堕落した人と共に住み、よくそれと同類視される。このようなひどい状態に陥らないようにするためには、超人間的な努力、すなわち人間以上の力によりすがるだけである。多くの者は罪を犯すよりむしろ苦難を選んで、高潔を保持しているが、この階級の人には特別に助けと同情と奨励が必要である。

田園の住居

今日、都会に密集している貧困者が地方に家を持つならば生計がたてられるばかりでなく、彼らが現在知らない健康と幸福を発見するであろう。激しい労働、簡単な食物、極端な節約、それにしばしば困難と欠乏にあうだろうが、都会を離れ、都会にある罪悪への誘惑、混乱、犯罪、悲惨、不浄を離れて、いなかの静かな、平安な、清い場所に行くことはすばらしい祝福ではなかろうか。

都会に住み、緑の野を一歩も踏んだことなく、くる年もくる年も、きたない中庭、狭い路地、れんが塀、舗道、ほこりと煙で暗くなった空をながめている多くの人が、もし緑の野、森、丘、小川、澄みわたった空、新鮮な、清いいなかの空気に囲まれた農村地方に連れて行かれたならば、まるで天国のように思うであろう。

人間との接触、人間への依存からすっかり離れ、社会の堕落的主義、習慣、刺激から遠ざかり、自然の中心に近づいて行くのである。神の臨在がさらに現実的なものとなるであろう。多くの人が神にたよることを学び、自然を通じて、神が心に平安と愛を告げられるのを聞き、思いも心も身体もそのいやしの力、生命を与える力に答えるであろう。

実業教育の必要

勤勉で自給する人になろうとすると、助けと励ましと教育を受けなければならない人が非常に多い。社会には貧しい家庭が多く、こうした人を地方に定着させ、生計をたてる方法を学ぶように助けることほどりっぱな伝道の働きはないのである。

こうした助けや教育の必要は都市ばかりとはかぎらない。より良い生活ができそうな可能性がある地方においてさえ、多数の貧困者がいる。地域全体に実業方面、衛生方面の教育が欠けているところが多い。あばら家にわずかな家具と衣類をもって住み、仕事をする道具も書籍もなく、生活の慰安も便宜も教育を受ける方法もなく生活している。悪い遺伝と誤った習慣の結果、虚弱な、奇型的身体をもった、野獣のような人があらわれている。こうした人は根底から教育されなければならない。彼らは不精で怠慢で堕落した生活を送ってきており、正しい習慣に改めるように教育されなければならない。

改良が必要であることをどのような方法で自覚させることができようか。生活の高い理想にどうしたら導き得られるか。どうしたら立ち上がるように助けられるだろうか。貧困がひろがっていて、そのうえ何かしようとすると一々反対されるところではどうしたらよいであろうか。確かにその働きは至難である。人間以外の力に助けられなければ必要な改革はできない。貧しい者と富める

者が同情と援助によって密接に結びつけられることは神の計画である。財産があり、能力がある者はその賜物を他人を祝するために用いなければならない。

クリスチャンの農夫の働き

クリスチャンの農夫は、貧困者がその地方に家を持ち、土地を耕作し、農作物がとれるようにする方法を教えることによって真の伝道事業をすることができる。農具の使用法、各種農作物の栽培方法、果樹の植え方、取り扱い方を教えなさい。

土地を耕作しているが、怠慢のために十分な収穫が得られない者が多い。その果樹園は適切に管理されておらず、適当な時期に種子がまかれておらず、また土地は単に表面だけしか耕作されていない。それでいて、不成功に終ると土地が悪いせいにする。よく働けば豊かな収穫が得られる土地を悪くいう偽りのあかしがたてられることがしばしばある。目先だけの計画や、わずかばかりの努力や、最善の方法に関する研究の不足は、改革を非常に必要としている。

喜んで学ぼうとする者にはすべて正しい方法を教えなさい。もし進歩した考案を聞きたくない人がいるならば、沈黙のうちにそれを教えなさい。自分の土地をりっぱに耕作し、機会あるごとに少しずつ教え、正しい方法がよいことをその収穫に雄弁に物語らせるようになさい。正しく働くならば、その土地にどれだけのことをなしうるかを実証なさい。

工業の施設

貧しい家族が職業を得るために各種の工業施設に注目しなければならない。大工やかじ屋その他各種の有益な仕事を理解している者はみな、無知な人や失業者を教え、助ける責任を感じなければならない。

貧しい人に対する働きにおいては婦人にも男子と同様に多くの仕事がある。じょうずな料理人、家政婦、裁縫師、看護婦等すべての助けが必要とされている。貧しい家の人に料理の仕方、自分の衣類のつくろい方、縫い方、ま

た病人の看護、正しい家事などを教えなさい。少年少女にも何か有益な商業や職業をよく学ばせるべきである。

伝道する家族

伝道する家族は未開墾の土地に住む必要がある。農夫、資本家、建築家、および各種の技術に熟練した人を未開な、荒廃した地に派遣し、その土地を改良し、工業施設を設け、自分のためには質素な家を建て、また隣人を助けるようにすべきである。

神は最も見ばえのしない、醜いものの中に美しいものを置かれて自然の荒れ地、荒れ野を美しくされているが、わたしたちに要求されているのもこうした働きである。外見は望みがないように見える砂漠も神の庭園のようになりうるのである。

「その日、耳しいは書物の言葉を聞き、目しいの目はその暗やみから見ることができる。柔和な者は主によって新たなる喜びを得、人のなかの貧しい者は、イスラエルの聖者によって楽しみを得る」(イザヤ書 29:18、19)。

自活するように人々を助けよ

実業方面の教育によって貧しい人々を最も効果的に助けることがよくある。働くように教育されていない人は、一般に勤勉、忍耐、経済、克己の習慣がなく、事態を処理する方法を知らない。注意深く、経済的に用いれば、その家族を見苦しくなく、楽にささえるものを、しばしば、不注意と正確な判断力の不足によって浪費してしまう。

「貧しい人の新田は多くの食糧を産する、しかし不正 (英訳・判断の不足)

によれば押し流される」(箴言 13:23)。貧しい人に与えても、依頼心を教えることになって、彼らを悪くするかもしれない。こうした与え方は利己主義や無力を助長するものである。それは時おり怠惰と浪費と不節制に至らせる。自ら生計をたてられる人は他人に依頼する権利はない。「社会は自分を生活させる義務がある」ということわざの中には虚偽、詐欺、窃盗の要素が含まれている。社会は自分で働いて生計をたてることができる人を養う義務はない。

真の慈善とは自活できるように人を助けることである。人が家にきて食物をこうならば、飢えたままで帰してはならない。その貧困は災難の結果であるかも知れない。しかし、真の慈善とは物品を与えることよりもっと深い意味がある。それは他人の幸福に対して心から関心を持つことである。わたしたちは貧しい者、悩んでいる者が何を必要としているかを理解するように努力し、彼らを最も益するように助けなければならない。そのように考え、時間を費し、個人的努力を払うことは、単に金銭を与えるより、はるかに高価なことである。しかもそれが最も真実な慈善である。

自分が受ける分を働いてとることを学んだ人は、受けたところを最大に使用することを学ぶのは容易である。そして自立することを学び、単に自活できるばかりでなく、他人を助けることができるようになる。その機会をむだにしている人に人生の義務の重要さを教えなさい。聖書の教えは人間を決して怠惰にするものではないことを示しなさい。キリストはつねに勤勉を奨励された。「なぜ、何もしないで、一日中ここに立っていたのか」となまけ者に言われた(マタイ 20:6)。「わたしたちは、わたしをつかわされたかたのわざを、昼の間にしなければならない。夜が来る。すると、だれも働けなくなる」(ヨハネ 9:4)。

62 ページの続き

たかも自分は全部わかっているかのような態度で答えたりします。あるいは、自分ひとりでずっと話して、ほかの人にはほとんど口をはさませないかもしれません。カケスのように、彼は実際、自分の仲間の間ではもっとも頭の良い人のひとりかもしれませんが、だからといって、何でも知っているかのような態度をとってもいいわけではありません。だれ一人として全部知っている人はいません。わたしたちはみんな、ほかの人から学ぶことがたくさんあります。

聖書には、「友のいる人は、友らしい親切を示す。そして、兄弟よりもたのもしい友もある」（箴言 18：24 英文訳）とあります。もし友だちがほしいなら、覚えておくべきいくつかの点があります。

真の友だちとして親切を示しましょう。まず自分からほほえみかけ、自分からほかの人に関心を示しましょう。

礼儀正しくしましょう。人にあいさつするのを恥ずかしがってはいけません。いつも「どうぞ」、「ありがとうございます」、「すみません」、「ごめんなさい」などの言葉を覚えていましょう。年上の人々を敬い、もし相手が教会内の大人であれば、「―兄弟」あるいは「―姉妹」のような敬称で話しかけましょう。もし相手が教会の知り合いでなければ、「―さん」と敬称で話しかけ、下の名前で呼ぶようにおっしゃらないかぎりは、名字でお呼びしましょう。

他の人に自分自身の見解を持つ自由を与えましょう。友だちになるには、彼らが自分自身の意見を持つ権利を尊重しなくてはなりません。もしだれかが間違っていると感じても、親切に話しかけ、その人のためにお祈りしなくてはなりません。

自分の言葉に気をつけましょう。もしだれにも陰口を言われたくないと思うなら、陰口をきいてはなりません。うわさ話は友情を台無しにします。

人をえり好みしたり、えこひいきしたりしていけません。ときどき人は、お金持ちや有名人とは自分から友だちになろうとするのに、貧しい人や醜い人や老人や障害者は無視したり、冷たくあしらったりします。しかし、イエスは地上におられたとき、だれの友だちになられたでしょうか。

変わらない友だちになりましょう。あなたの友だちが順調なときも、困っているときも変わらない友だちでいましょう。

最も近い友情は、教会にいる人々のために取っておきましょう。世の中の人々と友情を持つことはできますが、最高の親友は信仰を同じくする信者仲間であるべきです。「ふたりの者がもし約束（英文：同意）しなかったなら、一緒に歩くだろうか」（アモス 3:3）。ある男の子のお話があります。その子はかごいっぱいのスズメを飼っていて、それらにカナリヤのようにさえずることを教えたいと思っていました。カナリヤをスズメたちと一緒にかごに入れて二、三週間たった後、男の子は悲しそうに叫びました、「カナリヤまでピーチク鳴くようになっちゃった！」そのとおりです。わたしたちには自分の友だちの習慣がうつる傾向があります。あなたが霊的に成長するのを助けてくれるような友だちと過ごしましょう。そうすれば、祝福を受けます。そしてそのためにこの上ない最高の友だちはイエスご自身です！

力を得るための食事

ごま豆腐

材料

吉野葛	125 グラム
練りゴマ	150 グラム
水	6 と二分の一カップ
塩	少々
昆布だし	少々

作り方

全部合わせて弱火で煮る

きめ細かくなったら火を止める

＊焦がさないように弱火で絶えず混ぜて下さい＊

Information

教会のご案内

【正丸教会】

〒368-0071　埼玉県秩父郡横瀬町
芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【高知集会所】

〒780-8015　高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-0526

【沖縄集会所】

〒905-2261　沖縄県名護市天仁屋
600-21
電話：0980-55-8136

毎週土曜日教会プログラム

※毎週土曜日に礼拝しています。

安息日学校：9:30-10:45
礼拝説教：11:00-12:00
午後の聖書研究：14:00-15:00

無料聖書通信講座のご案内

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先：〒350-1391　埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。

書籍のご案内

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。

【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

ホームページのご案内

http://www.4angels.jp

礼拝説教（毎週土曜日 11:00-12:00）や聖書研究をビデオで公開しています。その他、書籍のご案内、イベントの紹介など。

メールのご案内

support@4angels.jp

永遠の真理
Eternal Truth

発行日　2010 年 2 月 1 日
編集＆発行　SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

イラスト：Higher Clips p.3,41,45; Joe Maniscalco p.4; SermonView p.44; DesignPix p.46; GettyImages p.1,5,7,8,11, 48,50,53,54,55,57,60,60

鳥たちと友だち

鳥のえさ箱をもっている人は、カケスの種類の鳥の習性に気づいたことがあるかもしれません。カケスはカラス科で、さまざまな種類がいます。アオカケスには色合いの美しい長い曲線を描いた尾と、頭には大きな冠羽があります。ですが、その美しい装いにもかかわらず、カケスがえさ箱に着くや否や、ほかの鳥たちは飛んで行ってしまいます。だれもカケスと一緒にはいたくないようです。

おそらく、あなたもときどき同じように感じたことがあるかもしれません。あるいは、だれかが安息日学校や教会の後で、「あーあ、教会の子供たちは好きじゃない。だれも僕に話しかけてくれないんだもの。カケスみたいにだれにも歓迎されていない気がするよ」というのを聞いたことがあるかもしれません。

なぜ、カケスは歓迎されないのでしょうか。気づいたかもしれませんが、カケスはやかましくて、利己的で、自分がほかの鳥たちに対してボスであるかのような態度をとります。ですから、カケスがえさ箱のまわりに来ると、まるでえさはほかのだれよりも自分のためであるかのようにふるまい、ほかの鳥はいやになってしまうのです。ときどき、わたしたちやわたしたちの知っている人がカケスのようにふるまうことがあるかもしれません。だれも友だちがいないと文句を言う人こそ、たいてい自分自身の問題の原因なのです。彼はどこかに一人で出かけると、ほかのみんなが自分のところに来てくれることを期待します。彼らが話しかけると、気取った態度で乱暴に答えたり、あ

続きは 59 ページ